



三原

お仕事ハンドブック2020

三原

三原を支える
会社と先輩
52stories

お仕事ハンドブック2020



思い描いてみよう、自分たちの未来を





この街の未来をつくるのは
誰かじゃなく、自分たち

思い描いてみよう。

将来、自分がどういう仕事をして、
どこで、どんな仲間たちと働いているのか。

決して遠い未来じゃない、10年後、20年後に
どんな大人になっていきたいのか。

まだ、はっきりと描くことはできなくても
その思いが必ず、未来につながる一歩になる。

CONTENTS

三原を支える会社と先輩

52stories

01 はじめに この街の未来をつくるのは 誰かじゃなく、自分たち

04 三原市紹介 ずっと住んでいたい街、三原

08 旭鉄工株式会社

09 株式会社アトラック
「子どもサロン 駅前ドレミ園」

10 株式会社アミックス

11 今治造船株式会社 広島工場

12 株式会社ガルバ興業 三原工場

13 医療法人杏仁会 松尾内科病院

14 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 広島工場

15 株式会社サービスセンター

16 株式会社澤井製作所

17 三光化成株式会社 広島工場

18 山陽建設株式会社

19 山陽乳業株式会社

20 株式会社システムイン国際

21 しまなみ信用金庫

22 新星工業株式会社 三原自動車学校

23 瀬戸内カートン株式会社

24 医療法人 大慈会 三原病院

25 社会福祉法人 泰清会
さんさんまりんこども園

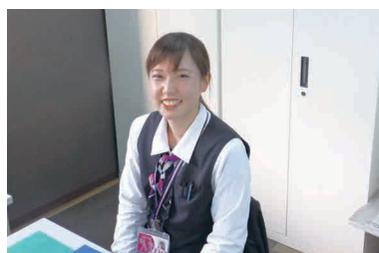
28 タイム株式会社

29 高砂香料西日本工場株式会社

30 タカノブ食品株式会社 三原工場

31 中国紙工業株式会社 三原工場

32 株式会社 椿き家



33 都吹株式会社

34 テクノス三原株式会社

35 東洋製罐株式会社 広島工場

36 株式会社ニホンケミカル

37 株式会社八天堂

38 ハラグループカンパニー

39 Palet's

40 美建工業株式会社 大和工場

41 平畑建設株式会社

42 株式会社広島エアポートホテル

43 広島電気工事株式会社

46 株式会社広島リサイクルセンター

47 株式会社ヒロヨシ

48 富士技術開発 株式会社

49 株式会社古川製作所

50 ホクト株式会社 広島きのこセンター

51 松尾電気株式会社

52 社会福祉法人 松友福祉会

53 三菱重工業株式会社(三原製作所)

54 三菱重工交通・
建設エンジニアリング株式会社

55 三原テレビ放送株式会社

56 三原農業協同組合

57 社会福祉法人 三原のぞみの会

58 株式会社 三原美装社

59 保道建設株式会社

60 株式会社 やっさ石油

61 株式会社 やまみ

62 社会医療法人 里仁会 興生総合病院

63 株式会社レニアス



社員座談会

26 株式会社八天堂

44 株式会社やまみ



Let's think about our future

思い描いてみよう、自分たちの未来を





STORY 01

確かな公共工事で地域の人々の 安全・安心な暮らしを守る

あかた たくや
赤田 卓也(28歳)

2018年入社

三原市立宮浦中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

中学生時代、将来の夢はプロレスラーでした。プロにはなりませんでしたが、趣味でときどき格闘技をしながら、体を動かす仕事をしたという現在の自分につながっています。旭鉄工に入社したのは、公共工事をメインに手掛けており、社会に貢献しながら自分自身のレベルアップができる環境だと考えたからです。僕が担っているのは古くなった水道管を新しくする工事なのですが、40年前や50年前に埋められた水道管は、掘ってみると図面や資料と違うことがあります。そういうときに、スタッフ皆で意見を出し合いながら、行政とも連携して無事に完成させることができると達成感があります。地域の方に「ありがとう、これで安心して水道を使えるよ」と声をかけてもらえることもあり、やりがいを感じています。



休日の過ごし方



娘たちのおままごとにつき合ったり、公園で遊んだりしています

公共工事には資格が必要なのですが、資格の勉強は平日の夜に集中して進め、休日の土・日曜は家族と過ごすようにしています。子どもが2人も女の子なので、家ではだいたいおままごとですね。「パパは何役ね」と配役を決められて、ずっと遊んでいます(笑)。近所の公園に行ったり、妻の実家の近くの牧場でジェラートを食べたりするのもお決まりのコースです。

公共工事やドローンを使った空撮で地域社会に貢献

創業70年を超える建設会社。三原市や広島県の公共工事を中心に、災害復旧や水道施設の老朽化対策などを行政と連携して進めている。また、三原市内でいち早くドローンを使った空撮事業をスタート。西日本豪雨で三原市の沼田川が氾濫したときにも空撮を行い、県や国土交通省に提供して復旧作業に生かした実績を持つ。今後は空撮写真を観光事業でのポスター作成などに役立てる可能性も視野に入れている。常に仕事に真摯に向き合う、前向きで明るい社風も魅力だ。



水道工事を中心としながら、道路や河川砂防などの公共工事手掛ける



ドローンの導入・空撮により、さまざまな状況を確認することが可能に

STORY 02

子ども一人ひとりの「初めて」に立ち会い 成長の喜びを共有できる幸せな仕事です

まるかわ さき
丸川 紗季(24歳)

2018年入社

三原市立宮浦中学校・私立如水館高等学校 出身

小さい頃から子どものお世話が好きで、自身が保育園の年長の頃には年少の子たちを寝かしつけていたほどでした。そんな私が保育士になったことは、周囲の人には予想通りだったようです。就職先として園児数が少ない小規模保育園を選んだのは、園児一人ひとりにじっくりと寄り添うことができるため。園には生後2か月から3歳までの子どもたちがいます。初めてハイハイをした、初めて話したといった子どもたちの「初めて」にたくさん立ち会うことができ、日々の成長を間近で感じています。その喜びを、先生方や保護者の方々と共有することで、本当にいい仕事だなとかみしめています。先輩方から子ども一人ひとりの発達に応じた保育を学び、安心して預けていただける保育士を目指して日々の業務に取り組んでいきたいです。



休日の過ごし方



SNSでカフェ情報をチェック、おいしいスイーツを発掘しています

食べるのが好きなので、休日には園の同僚や友人とSNSでチェックしていたカフェを巡っています。特に甘いものが大好きで、フワフワのパンケーキには目がありません。三原市内はもちろん福山市、時には遠出をしてランチ、スイーツ、ドライブを楽しんでいます。おいしいものでリフレッシュすると、また頑張ろうという気持ちが湧いてきます。

家庭的な雰囲気の中で、のびのびとした集団保育

三原市を中心に「一人ひとりが夢を持てる環境づくり」を目指して人材派遣業を行う「アトラック」では、小規模保育園を運営。「駅前ドレミ園」の園児の定員は19人、保育士は全8人。充実した保育環境が特徴で、少人数で一人ひとりの個性を大切に、家庭的な雰囲気の中で集団保育を実施している。保育士は毎年キャリアアップ研修に臨み、保護者支援、保健衛生といった保育のための専門知識を深め、安心、安全な保育を提供している。



お誕生日会など多様な行事を実施



園外保育で安全にのびのびと活動



STORY 03

若い人たちの発想と行動力が これからのものづくりを支える

株式会社アミックスは、自動車部品などを作るための大きな金型部品を高精度で加工できる技術と、お客様の要望に柔軟に対応できる生産体制を強みにしています。主な製品は、ダイカスト金型の母型と呼ばれる、金型の土台となる部品です。国内では母型を専門に加工する会社は数社しかなく、非常に専門性の高い仕事です。主なお客様は、自動車関連のダイカスト金型メーカー。今、自動車業界では、地球温暖化対策のため電気自動車に置き換わる流れが徐々に大きくなり、100年に一度ともいわれる大変革期を迎えようとしています。まもなくやってくるであろう大きな変化に対応するためにも、若い人たちの柔軟な発想と行動力が必要となります。

アミックスのものづくりは、コンピューター制御の機械で鉄を削る作業が基本。お客様からの図面データを元に、工作機械を動かすためのコンピュータープログラムを作ることから始まり、お客様に満足していただけるよう正確かつ効率的に作業を進めます。



工場内では、室温が一定に保たれた環境のもとで最先端の設備が稼働し、空気清浄機も常時まわっているため、とても快適な環境になっています。万が一に備えた保険制度や、将来のための個人年金制度などの福利厚生も大企業並みに充実しています。これからも社員が安心して長く働くことのできる会社であり続けるために、より良い職場づくりを進めていきます。



おもがた 母型づくりを通じて社会に貢献する

おもがた母型づくりを通じて社会に貢献すること——それがアミックスの使命。ダイカスト鑄造法が日本で実用化されて100年以上が経ち、この間にさまざまな周辺技術の発展とともにダイカスト技術は目覚ましい進化を遂げてきた。今日では、私たちの日常生活のあらゆるところでダイカスト製品が使われている。身近なところでは自動車部品もそのひとつ。特にアルミニウムダイカストは軽量でリサイクル性も優れていることから環境に優しい部品として需要が拡大している。地球規模での環境対策が進むなか、アミックスは母型づくりのプロフェッショナルとして、ダイカスト技術の基幹となる金型を根底で支えている。



手前から第1工場、第2工場、第3工場



STORY 04

日本一の造船会社で、地元の仲間に 支えられながら励んでいます

かわうえ たかてる
川上 貴央 (24歳)

2019年入社

三原市立第二中学校・広島県立三原高等学校 出身

小学校から大学まで野球を続けました。野球で得た人のつながりや、努力の大切さを学んだ経験は、僕の大切な財産です。今治造船は、新造船建造量で日本一の会社です。最大で全長365.9mにも及ぶ大型のコンテナ船を造るのですが、その中で、船の底部や側面に使う厚板を作る工程管理を担っています。設計チームから送られてきたデータを機械に入力し、現場の職人さんたちに指示をしながら作業します。少しでもミスがあれば船は完成しないので、責任は重大です。失敗することもあります。僕のとりえは、野球で培った「めげない心」。皆から「あいつなら大丈夫」と信頼される人間になれるよう、日々努力しています。職場には同じ中高の卒業生もいて、先輩方が明るく励ましてくれることが支えになっています。



休日の過ごし方



地元の友人や会社の仲間とスポーツを楽しんでいます

休みの日は、地元の友人や会社の同僚と野球やゴルフ、テニスなどのスポーツをして過ごしています。ゴルフをするときは、東広島カントリークラブや尾道カントリークラブ、尾道ゴルフ倶楽部など、近くのコースを回っています。野球は、今は地元の先輩のチームに入っていますが、いずれは会社の野球部にも参加してみたいと思っています。

日本の物流と経済を支え、人々の生活を豊かに

日本の人々の生活に欠かせない貿易物資の99.6%は、船で運ばれている。今治造船は、その船の新造船建造シェア日本一の造船会社。愛媛県今治市に本社、瀬戸内海沿岸にグループ10工場を持ち、各工場ですべての種類の船を造っている。三原市幸崎に位置する広島工場では、2008年に大手造船所以外では初となる液化天然ガス運搬船を、2015年には当時日本最大の14,000個積コンテナ運搬船を建造。高度な技術を必要とする大型船の建造を得意としている。



各工程で精密な作業が求められる



海から見た広島工場の全景



STORY 05

未来の街を支える仕事がある 暮らしを支える技術で世の役に立つ人に

かわみつ れいじ
川光 玲司 (23歳)

2016年入社

三原市立第五中学校・広島県立尾道商業高等学校 出身

思い出が野球しかないほど、学生時代は野球やソフトボールに夢中になっていました。進学が就職か迷ったとき、真っ先に浮かんだのは両親の顔。練習にかかる費用や遠征費を快く出して応援してくれた両親に、就職という形で恩返ししたいと思いました。

世の中の役に立つ仕事ができると、実家から近かった「ガルバ興業 三原工場」へ見学に。大型設備のスケールに驚き、生活に欠かせない加工技術を提供していると知り、入社を決意しました。担当しているのは製造ラインの仕上げの工程。製品が仕様通りにできあがっているか確認するところでもあるので、責任とやりがいを感じています。また、職場は外国人の実習生も多いので、思いがけず言葉や文化の学び合いができるのもいいなと感じています。



休日の過ごし方



野球やゴルフ、運動が好き。釣りで地元の良さも再認識

もちろん野球が趣味ですが、スポーツ全般が好きなので、最近ではゴルフを始めたり会社の仲間とフットサルチームを作ってプレーを楽しんでいます。ほかにまっているのは、釣り。三原は海がすぐ近くにありふらりと出かけられるのが良いところ。魚がかかるまで動かさずじっと待つ忍耐力が、仕事でも生かしているように思います。

ようゆう 人々の生活を支える溶融亜鉛めっきのリーディング企業

船舶やガードレール、高層ビルの鉄骨など、さまざまなところで使われている鉄を錆から守るため、溶かした亜鉛でコーティングする溶融亜鉛めっき加工という技術を提供している。三原工場に設えてあるめっき槽は全長17mと業界屈指。大型製品に対応できることに加え、日本最大級の保管場を有しているため、ジャストインタイム方式で製品をタイムリーに納品できるのが強み。独自の戦略でクライアントの満足度を徹底追求し、人々の生活を支えている。



卓越したスケールと生産能力が武器



三原工場外観

STORY 06

仕事と子育てを両立しながら目指すのは 患者や患者の家族に寄り添える看護師!

きさちえ
吉舎 智恵

2016年入社

三原市立宮浦中学校・広島県立三原東高等学校 出身

幼稚園の頃に食中毒で入院した時、そばで優しく寄り添ってくれたのが看護師さんでした。私や家族のために親身になってくれた看護師さんが輝いて見え、自然と目指す職業になりました。結婚を機に、以前働いていた病院を退職し、25歳の時に松尾内科病院に入職。現在は、病棟リーダーとしてスタッフをまとめたり、入院患者さんの日常生活の援助を行っています。医師、上司、他職種との距離が近く、専門的な意見交換がスムーズにできるので、とても働きやすいです。産休・育休はもちろん、通常の休みも取りやすく、仕事と子育てが両立できるのも魅力。今後は、高齢化が進む中、患者さんや患者さんの家族と同じ目標に向かって、ベストな医療、看護、福祉を受けられるよう寄り添える看護師になりたいです。



休日の過ごし方

お出掛け大好き! 息子と一緒に三原や尾道の公園へ

2歳の息子と公園で遊ぶことが多いです。三原市芸術文化センターポポロにある宮浦公園、やまみ三原運動公園、尾道市のびんご運動公園などがお気に入り。母親同士で情報交換ができるのも楽しいですね。お出掛けが好きなので、コロナ禍の前は、動物園や水族館、ショッピングモールに行ったり、バーベキューをしたりと、活動的に過ごしていました。

真心を込めた医療を原点に、質の良い医療と介護を提供

「愛と勇気と英知を持って、地域のみなさまに信頼される質の良い医療と介護を提供し、地域社会の一員として責任を果たし貢献する」を基本理念に掲げる医療法人杏仁会。松尾内科病院は、1977年の開院以来、内科専門病院として真心を込めた質の高い医療に取り組み、先進的な医療機器の整備にも力を注ぐ。介護老人保健施設三恵苑、訪問看護ステーションかもめ、かもめ居宅介護支援事業所なども運営し、地域の医療機関や介護・福祉施設と密に連携している。



病床数110床の内科専門病院



抜群のチームワークで患者をサポート



STORY 07

家族や友人が手にする飲料 責任を持って安心安全に届ける

おざわ りょうた
小澤 良太 (22歳)

2017年入社

竹原市立竹原中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

「普段当たり前のように飲んでいる飲料は、どのように作られているんだろう」。その疑問がコカ・コーラという会社、製造工場に興味を持ったきっかけです。職場見学に行き、想像以上のスピードで飲料が作られていて、驚いたのと同時に「自分もやってみたい!」と感じました。製造課で充填作業を担当しており、工具の名称や基本操作など、高校時代に学んだ機械についての予備知識にずいぶん助けられています。自分が製造に携わった飲料を、家族や友人が飲む姿を見るのは嬉しさもひとしお。安心安全な飲料を作ろうと、より強く思います。今後はさらに知識や経験を増やし、班のリーダーを務められるぐらいになりたい。責任を持って、多くの人をハッピーにする飲料を届けたいです。



休日の過ごし方



会社の人と楽しむゴルフで連帯感や協調性を育んでいく

学生時代の夢は甲子園に出ることだったというほど野球漬けの毎日でした。今でも体を動かすのが大好きで、最近では会社の先輩に教えてもらったゴルフに熱中しています。プレーをしながら仕事やプライベートについて話が弾んだり、会社で接する以上に仲良くなれます。運動を通じて育まれる連帯感や協調性を大事にしていきたいです。

世界トップシェア飲料を支える最新鋭の工場

飲料分野での世界No.1企業を目標にグローバル展開しているコカ・コーラ社。全世界にあるコカ・コーラ社製品の製造販売をするコカ・コーラボトラー約250社のうち、当社は売上高においてアジア最大の規模を誇る。広島工場は、1分間に900本生産できるラインを2つ有し、2段階充填可能な設備を導入。中四国を中心に製品を供給している。また、ダイバーシティへの取り組みも展開し、誰もが活躍できる多様性のある職場づくりを目指している。



西日本の中核的な製造拠点

STORY 08

技術力と「人の力」を生かして、 地域の人に貢献したい

やまね のぶひろ
山根 伸裕 (31歳)

2016年入社

三原市立第五中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

機械が好きで、中高生時代はゲーム機を分解して、はんだ付けして修理したり、マイコンカーを作ったりしていました。仕事をする上で考えたのは、技術を生かして、人の役に立ちたいということです。サービスセンターでは、消防点検や空調換気システムなどの設備の修繕、水道管が破裂したときの緊急対応など、幅広い業務を手掛けています。出張先は、官公庁からマンション、個人宅まで。技術的に分からないことはチームのメンバーや先輩に確認しながら対応し、無事に終わったときには、心から「ありがとう、助かったよ」と言ってもらえる仕事です。多方面でさまざまな人との出会いがあり、多種多様な修繕技術を学びながら、地域に貢献しているという実感が持てるのが魅力。日々スキルを磨き、技術関連の資格取得にも励んでいます。



休日の過ごし方



現場で保護した猫が自宅での癒やしになっています

以前、個人宅の脱衣所の周辺で何かの声がするというので駆け付けてみたら、壁の中から生後2ヶ月ほどの子猫が出てきました。どうも、天井裏を通してそこに産み落とされたようでした。母猫も見当たらず、飼い猫を失った後だったので、僕が自宅で育てることにしました。そのときの猫「大福」は、今も元気に大切な家族として一緒に過ごしています。

地域の「困った」に対応するプロの技術屋集団

くもっと快適で暮らしやすい「まち」へをコンセプトに、設備保守・修繕、法令点検、各種設備工事施工、環境衛生・清掃、システム開発など、地域の「困った」に応える幅広いサービスを提供。町の安全と発展に貢献する、頼りがいのある身近な存在を目指し、誠意とスピードのある対応を心掛けています。急な依頼にも24時間365日対応することから、官公庁や公共インフラへの対応でも存在感を發揮。やっさ祭りや半どん夜市への参加など地域活動にも力を入れている。



24時間365日、誠意とスピードある対応を心掛ける



STORY 09

先輩に教えていただいたように、 後輩に分かりやすく伝えたい

うすい りゅうせい
碓井 龍晟 (24歳)

2019年入社

三原市立宮浦中学校・広島県立三原東高等学校 出身

学生の頃は夢がなく、進学や就職を考えてもやりたいことが見つかりませんでした。仕事を始めたらそれが夢になるかなと思ひ、三原市の企業をインターネットで検索してこの会社を知りました。機械に触ってみたい、ここで働く先輩に会ってみたいと興味を強く持ちました。担当している仕事は成形機を操作するオペレーターで、国家資格のプラスチック成形技能士を取得するためにも必要な経験なので、頑張っています。入社当時、機械のことが分からず困っていると、先輩から声をかけてくださり、分かりやすく教えていただきました。面倒見の良い上司、場を盛り上げてくれる先輩がいるので楽しく仕事をしています。先輩方に教わったように、私も後輩に分かりやすく伝えたいです。「いただいた恩を返す」という夢ができました。



休日の過ごし方



バイクで海へ、写真を撮ってたくさんの思い出を

お気に入りのバイクでいろいろな場所に出掛けています。バイクは体の一部のようなもので、一緒に眺めの良い景色を見て、一体になって風の中を駆け抜ける感覚が好きです。行き先は瀬戸内海の橋が架かる場所など眺めの良い場所。そういった場所を見つけて、写真に残しています。とっておきの場所を増やしていきたいです。

世界に向けて価値を創造する自動車部品メーカー

世界中の自動車ですられるプラスチック製品を作る「澤井製作所」。「モノづくりから価値づくりへ」を経営ビジョンに掲げ、製品図面をもとに製品化する加工業務だけでなく、モノづくりの一步前段階の設計・提案・金型製作といった開発業務も行う。成形後の複数の工程を一度に行う同時加工も強み。全国で数少ない特級のプラスチック成形技能士が3人在籍し、確かな品質は“SAWAIブランド”として定着している。中学生の職業体験や高卒採用に力を入れるなど、人を育てることを大切にしている。



成形工場に組立工場、
出荷センターも併設



開発や加工で幅広く対応できる
製造環境

STORY 10

きれいで快適、女性が多く 男女ともに意見も言いやすい職場です

きよし れん
清代 蓮 (21歳)

2018年入社

三原市立本郷中学校・広島県立尾道商業高等学校 出身

この会社を初めて知った時の第一印象は「工場がきれい!」ということでした。暑くも寒くもない快適な環境と、女性が多いことにも驚きました。会社訪問時にお世話をしてくれたのが現在の女性上司なのですが、その時に聞いた「人間関係が良い」というのは本当でした。入社してまず生産課に配属され、2年目に現在所属する生産管理課へ異動となりました。性別で仕事制限されることがないので、さまざまな部署で女性が活躍しています。私の担当は、製品を間違いなく時間通りに出荷して、お客様の元に完全な形で届けること。代えがきかない製品なので取り扱いに緊張します。最初は時間がかかっていたことが早くできるようになり、任せてもらえる仕事も増え、やりがいを感じています。日々、新しいことが学べるのでわくわくしています。



休日の過ごし方



休みの日は、猫5匹、犬3匹とまったり過ごします

休日は土・日曜の週休2日制、平日もほとんど時間通りに退社します。女性社員が集まって食事に行くこともあります。家に帰ってからの楽しみは、猫と戯れること。母が出会った野良猫で、5匹もいるんです。時間を忘れて触り続けています。犬も3匹いるのでにぎやかですが、一緒に過ごしているととても癒やされます。

働く人や地球に優しい工場、女性が3割も

国内10拠点、海外3拠点で、自動車、精密機器、電子機器、衛生機器などあらゆる業種のトップメーカーへオーダーメイドのプラスチック部品を供給する三光化成。製品の設計から金型製作、生産、後加工までを一貫して行えるのが強み。微細なメッシュや肉厚なレンズなど、不可能だといわれていた形や世の中に役立つ製品を提供し、新しい市場に進出している。広島工場はオール電化、空調管理、太陽光発電の活用などで人にも環境にも優しい環境を確保。従業員の3割が女性で柔らかな雰囲気が印象的だ。



音も臭いも気にならない快適な環境



2021年4月に運転開始予定の
太陽光発電。エネルギーにも配慮



「建築のことなら笠上に聞けば大丈夫!」 誰からも頼ってもらえる人材を目指し奮闘中

かさうえ

かさうえ えいきち
笠上 永吉 (24歳)

2017年入社

三原市立幸崎中学校・広島県立忠海高等学校 出身

三原から離れたくなかったため、市外での就職は考えませんでした。実家が住宅の基礎の仕事をしており、幼い頃から身近に感じていた建設業界に就職。現在は、工事現場で建築物の工程や品質の管理、安全管理などを行う施工管理を任されています。自分の一言で、人が動き、物が動き、金が動く。責任が大きい分、自分が描いた計画通りに現場がまわった時の達成感は格別です。二回り以上年上の職人さんと関わることも多いですが、へりくだってお願いするのではなく、明確に指示するようにしています。普段から良い関係性を築き、コミュニケーションを取ることが大切です。今後の目標は、「建築のことなら笠上に聞けば大丈夫!」と誰からも頼ってもらえる人材になること。様々な業界の人と幅広い話ができるよう、貪欲に知識を獲得していきます。



休日の過ごし方



スポーツや旅行、祭りなどアクティブに楽しむ

仕事終わりや休日は、バレーやテニスなどをして、体を意識的に動かすようにしています。私の部署では現場が終わるごとに1週間ほどの長期休暇をもらえるので、普段は行けない遠方へ足を延ばすことも多いですね。毎年、地元で行われる能地春祭りに参加するのも楽しみの一つ。「ふとんだんじり」と呼ばれる迫力満点のだんじりを担いでいます。

陸上土木から住宅まで多岐にわたる工事で地域社会に貢献

1949年の創業以来、河川・港湾工事を得意とする建設会社として基盤を築き、その後、陸上土木工事、建築工事、住宅工事で活躍のフィールドを拡大。施工管理のスペシャリストとして、アイデアを出し工夫を凝らしながら、顧客の要望に応じたプランを提案する。三原市芸術文化センターポポロ、三原市消防本部庁舎、三原バイパスなど、地元の建築物を数多く施工しているため、普段から完成後の姿を目にでき、地域社会に貢献していることが実感できるのも魅力。



暮らしの向上と安全・安心を守る



マツダスタジアムにも看板広告を掲出



子どもたちに「おいしい牛乳をありがとう」と 言われることの喜び

すなうち たかひろ
砂内 貴博 (32歳)

2016年入社

近畿大学附属東広島中学校・近畿大学附属東広島高等学校 出身

中学・高校時代から製造に関わる仕事がしたくて、大学でもIT・機械工学の勉強をしました。山陽乳業に入社したのは、地元の会社であること、同社の先輩に「自動化が進み、ITに詳しい人材が会社にとって必要だ」と言ってもらえたからです。牛乳のパック詰め作業でも、ITの知識があると機械の不具合にすぐに対処することができます。安全でより品質の高い製品を作るためには、常に機械を滞りなく作動させ、何かあれば一秒でも早く対処が必要。工場に見学に来てくれた子どもたちに「いつもおいしい牛乳とヨーグルトをありがとうございます」と言われると、自分の仕事に誇りを感じます。今後、さらに知識と経験を積み、より重要な仕事を任せられるように励みながら、少しでも皆さんの健康に貢献することが夢です。



休日の過ごし方



実家の農業を手伝ったり、資格の勉強をしたりしています

実家が三原市内でお米を作る農業をしているので、稲刈りなどで人手が必要なときには僕も手伝いに行っています。それがないときには、仕事に役立つ資格の勉強をしたり、好きな映画鑑賞をしたり。お休みがしっかりと取れるので、人と会うときにも予定が立てやすく、自分の時間を自由に使うことができます。

消費者の「安全・安心」と酪農生産者の「情熱」の掛け橋として

牛乳・乳製品を製造し、販売エリアは広島県、岡山県を中心に中国・四国・近畿・九州・中部・北陸と広範囲にわたる。近隣の学校給食牛乳の提供も行う、地域の食と健康を支える企業です。商品開発に力を入れ、開発部門だけでなく営業・製造担当者も交えて会社全体で新製品づくりに取り組むことで、乳業界では全国で初めてヨーグルトのモンドセレクション金賞を受賞。2020年からは機能性表示食品(消費者庁認可)のヨーグルトも発売するなど、日々研究を進めています。



牛乳など商品を充填



安心・安全でおいしい商品を全国に届ける



STORY 13

豊かで明るい社会実現の基盤となる “利他のところ”を持って

みずま ひさし
代表取締役社長 水馬 久司 (64歳)
1987年入社
三原市立本郷中学校・広島県立三原高等学校 出身

私たちの会社の前身は造船関連の電気設備会社で、現会長は私のかつての同級生。1987年に未来のコンピュータ社会を見据え、共に今の会社を立ち上げました。現在は土木工事積算システム「土木マスター」、電子納品システム「Calシリーズ」や、地元のお客様からの受託ソフトウェア開発などICT技術を基盤とした製品やサービスをリーズナブルな価格で開発提供。社是である「利他のところ」は、いつも相手を敬い、大切に思い、一緒に利益と幸福の追及を目指すことです。幼い頃から人権や平和を思うことの大切さを多くの人から教わり、今日のコロナ禍、オリンピック憲章を巡る議論に改めてその大切さを感じます。これから羽ばたく若い人たちが“他者を尊ぶ心持ち”で未来を語る、それが明るい社会を形成する基盤だと思っています。



休日の過ごし方



新事業への展開も視野に入れながら、イチゴを栽培

大学では農学部在籍していたぐらい農業が大好き。今はイチゴ栽培を手掛け、その成長を楽しんでいます。趣味としての側面もありますが、事業として成り立たないかと模索もしています。ドローンによる農薬散布やトラクターの自動運転など農業のIT化は進んでいますが、まだまだ余地はあります。私たちに役立てることがないか、日々模索中です。

ソフトウェア開発から販売まで一貫したサポート

お客様の視線を重視した取り組みとオブジェクト指向による製品の開発で満足と地域トップシェアを獲得できる会社になること、社員一人ひとりが仕事の達成感や自身の成長を通して一生働きたいと思える会社にすることが自社のビジョン。ソフトウェアの開発から販売まで、お客様に寄り添い一貫してサポートしている。また、ソフトウェアのみならず、パーソナルコンピュータや周辺機器の販売、各種OA化のコンサルティングも手掛けている。



新たな価値を創造する研究開発に邁進



メイン製品の「土木マスター」

STORY 14

金融を通じて大好きな三原に恩返し 常に成長する金融マンになりたい

みずくれ じんや
水呉 仁哉 (25歳)
2018年入社
三原市立第四中学校・広島県立三原高等学校 出身

中学・高校の6年間バスケットボール部に所属し、部活動に励みました。チームメイトとコミュニケーションを取ることの大切さを知り、「人と関わる仕事に就きたい」と思うように。広島市内の大学に進学するも、生まれ育った三原が好きで、地元に戻って就職。しまなみ信用金庫の渉外担当として、地域の個人・事業主を訪問し、預金や融資の提案や集金、経営相談などを行っています。多種多様な業種の幅広い年齢の方と接することができるのは楽しいです。融資や情報提供を通して、お客様から「ありがとう」と感謝してもらった時は、うれさと同時に大きなやりがいを感じます。今後の目標は、金融を通じて三原に恩返しをすること。業務に積極的に取り組み、専門的な知識を身に付け、日々成長していきたいです。



休日の過ごし方



流行りのアウトドアで心身ともにリフレッシュ!

友人や家族とキャンプに行き、バーベキューやたき火を楽しんでいます。ラーメンやアヒージョなどのキャンプ飯を作ること。自然の中でゆっくり時間を過ごす、ストレス解消になり、リフレッシュできます。半年ほど前からゴルフを始め、打ちっぱなしにも行くようになりました。まだ趣味といえるレベルではありませんが、日々練習に励んでいます。

長年の実績と信用で、地域に密着した金融サービスを提供

1944年の創業以来、「地域の皆様とともに、地域社会の発展に貢献する」の理念のもと、広島県東部を中心に展開する地元金融機関。預金をはじめ、融資、保険などさまざまな金融商品を取り扱い、中小企業、個人事業主、個人などに向けてニーズに合ったサービスを提供している。長年の歴史に裏付けされた信用を大切にしつつ、伝統を保ちながらも時代をリード。業務エリアが限定されているため、地元の人と交流ができ、地域に密着した業務活動ができるのも強みだ。



笑顔と真心で対応するテラー担当



JR三原駅近くにある本店



STORY 15

自動車学校の顔となるフロント業務 たくさんの笑顔でサポートを

おかもと ちか
岡本 千佳 (25歳)

2019年入社

三原市立第三中学校・学校法人 清水ヶ丘学園 清水ヶ丘高等学校 出身

三原自動車学校の指導員を務めている中学校の頃の先輩に「明るくて良い会社だよ」と勧めてもらい、携帯ショップの販売員から転職しました。創業したばかりの会社なので若いスタッフが多く、互いに意見を出し合い切磋琢磨できる環境が気に入っています。最近の自動車学校はオンラインで講習予約を取ることが多いですが、うちのポイントは対面予約もできること。私はフロント業務を担当しているので予約が重ならないか調整をしています。また、予約が長く入っていない生徒さんに何か困難がないか確認したり、高齢者講習に訪れたご年配の方をサポートしたりと、積極的なフォローを心掛けています。皆さまに「三原自動車学校を選んで良かった」と言ってもらえるよう丁寧な対応に努めます。



休日の過ごし方



ソフトボールの社会人チームで汗を流し心身スッキリ

休日は週に1回、社会人チームでソフトボールをしています。中学・高校時代の6年間ソフトボール部にいたため、今でもソフトボールが大好き。社会人チームなので、年代や業種の異なる人たちと交流が持てるのも楽しいです。仕事で悩んでいる時や落ち込んでいる時に汗を流してスッキリすると、気持ちを切り替えることができます。

独自の取り組みが高評価の利用しやすい自動車学校

2012年創業、三原を中心に尾道、竹原、東広島、福山までカバーする自動車学校。普通車、二輪車の免許取得をはじめ安全講習やペーパードライバー講習にも対応している。女性指導員の割合が多く、丁寧な指導と行き届いた設備が評判。「利用しやすい自動車学校」を合言葉に、多様な自動販売機の設置や衛生用品を充実させた洗面所など、独自の取り組みで顧客数を伸ばしている。また、社員一人ひとりが主体性を持って働く職場環境も魅力。



送迎バスの便数が多く便利



LEDライト使用で夜も視界良好のコース

STORY 16

専門知識を身に付けスキルアップ! お客様から信頼される営業マンに

まつばら たいが
松原 大雅 (27歳)

2015年入社

三原市立第三中学校・学校法人 盈進学園 盈進中学高等学校 出身

中学・高校の頃は、ひたすら野球漬けの日々で、夢は甲子園出場でした。結果が残せず悩むことも多かったですが、仲間と切磋琢磨し、成長できたことは大きな財産になりました。入社して5年半は生産管理の仕事に携わっていましたが、2020年秋に営業課へ異動となり、備後地区、県北などのエリアを回っています。売上目標を達成することは大変ですが、新規開拓に成功したり、お客様に「ありがとう。助かったよ」と笑顔で喜んでくれたときはやりがいを感じます。近年、eコマース(ネット通販)の普及により、段ボールが身近に感じられるようになりました。今後の目標は、多くのお客様から信頼され、尊敬される人材になること。営業面での知識をもっと身に付け、積極的に提案ができるようスキルアップしていきたいです。



休日の過ごし方



ソフトボールやゴルフでリフレッシュ!

今でも体を動かすことが好きで、社会人になってからは、ずっとソフトボールを続けています。練習や試合で汗をかいた後のビールは、たまらなくおいしい! 最近はゴルフにもめり込んでいて、友人や会社の人とラウンドを楽しんでいます。休日にしっかり遊びリフレッシュすることで、仕事も頑張ろうという意欲が湧いてきます。

きめ細かな提案力で付加価値の高いパッケージをお届け

1986年の創業以来、広島県内を中心に段ボールの販売活動を行い、現在では約250社へ届ける。長年培われた能力と技術力で、お客様のニーズに応えるべく、付加価値の高いパッケージを提案。セツカートングループのネットワークで全国への供給ができるのも強みだ。段ボールは、最もリサイクル率の高い資源のひとつ。お客様に対して再利用を呼び掛けるなど、CO₂の削減に積極的に取り組み、きれいな地球を次の若い世代に繋げていくことを目指す。



段ボール製品をはじめさまざまな製品を取り扱う



地球環境に優しいサービスを追求する



STORY 17

患者さんに親身に寄り添う仕事こそ “私のやりたかった仕事”

かわなか ゆりか
川中 友理夏 (28歳)

2015年入社

三原市立第三中学校・広島県立三原高等学校 出身

中高生の頃は、医療機関で働く父親の影響で、漠然と「誰かの役に立つ仕事に就きたい」と思っていました。大学進学で悩んでいたときに、父親の助言で福祉の道を選択。大学在学中に取得した精神保健福祉士の資格を生かしたいと当病院に就職しました。私の役割は、患者さんの入院日程の調整や、入院中および退院後の生活相談などです。心掛けてきたのは、患者さんに寄り添いながら、そのご家族との関わりも大事にすること。信頼関係を深めることで、心を開いてもらえるからです。印象深いのは「病院のほうが居心地がいい」と退院を渋る長期入院の患者さんに親身に相談に乗ったこと。結果として、娘さんとの同居生活に希望を見いだされ、安心して退院されました。そのとき、これが私がやりたかった仕事なんだと気付きました。



休日の過ごし方



家族4人そろってのお出掛けで身も心もリフレッシュ

仕事では繊細な気遣いが求められるので、休日はリフレッシュの時間になっています。今年はコロナ禍のため自粛中ですが、家族と一緒に三原市芸術文化センター「ポポロ」の芝生広場を散歩したり、買い物を楽しんだり、ときには温泉や東京ディズニーランドなど旅行に出掛けることも。料理やお菓子作りも大好きで、子どもたちの喜ぶ顔を見ると疲れも吹き飛びますね。

地域に根差した、科学的根拠に基づいた高水準の精神医療施設

医療法人 大慈会 三原病院では、複雑な現代社会が抱える、うつ病やストレス性疾患、神経症、アルコール関連疾患、思春期の心の病から老年期の精神疾患と幅広い精神疾患の治療を行っている。また広島県東部における精神科救急医療施設や認知症疾患医療センターの指定を受け、24時間体制での緊急医療や、認知症疾患の鑑別診断・急性期治療・専門医療相談などにも対応している。一方、病院職員の働きやすい環境づくりにも力を注ぐ。産休・育休制度の導入や保育所の設置もその一つだ。



先進の精神医療を提供する三原病院 明るくゆったりとした外来ロビー

STORY 18

子どもたちの良いところを 伸ばせる保育士に成長したい

さかい みなぎ
坂井 美風 (21歳)

2020年入社

三原市立第五中学校・広島県立三原高等学校 出身

小さい頃から絵を描いたり歌を歌ったり、ピアノを弾いたりすることが好きで、好きなことを生かせる保育士の仕事に憧れていました。この園を選んだのは、保育実習でお世話になり、職場の雰囲気がとても温かく、子ども一人ひとりの個性や気持ちに寄り添って保育している姿に感銘を受けたからです。同じことをするのでも、子どもによってやる気を引き出す声かけやサポートのしかたは違います。そうした保育の秘訣を先輩方に教わりながら、子どもたちが伸び伸びと過ごせて、良いところを伸ばしていける保育を目指しています。仕事のやりがいは、子どもたちの笑顔。初めて何かができるようになったとき、「先生!」と笑顔いっぱい駆け寄ってきてくれたり、「先生大好き!」と言ってくれたりすると、保育士になってよかったと感じます。



休日の過ごし方



きれいな景色を見て写真を撮ることが好きです

休みの日は景色の良い場所を探して、いろいろな所へドライブに行ったり旅行に出掛けたりしています。お気に入りの場所は、香川県の父母ヶ浜。散歩をしていたら、近くにいた方が写真を撮ってくださりました。他にも比治山大学で一緒に保育を学んだ仲間と休みを合わせて飲みに行くことも。お互いの仕事のことを話したり、とても助けられています。

楽しみながら多彩な経験ができる、地域に愛されるこども園

三原駅から徒歩5分、市役所新庁舎の隣に位置するこども園。12階建てビルの1、2階にあり、通常の園庭の他に屋上の全面人工芝を園庭として利用し、夏は水遊びも行っている。幼児は1年を通じて近隣のプールに通い、5歳児は専門のコーチに泳ぎの指導を受ける、英語やリトミックを専門性の高い講師を招いて行う、園バスに乗って園外に出掛けるなど、さまざまな体験ができるのが特徴。高齢者福祉施設が併設されている環境を生かし、地域の人々との異世代交流で思いやりの心も育てている。給食は自園で調理し、おやつもチーズケーキや五平餅、フルーツゼリーなど手作りを提供。離乳食やアレルギーにも全て個別に対応、献立や調理方法の改善点も月1回の給食会議で検討し、食の安心・安全にも力を入れている。



全面人工芝を庭園としている屋上 中心市街地に立地した都市型保育園

株式会社八天堂

三原を代表する企業のひとつとして
地域への思いを大切に受け継いでいく



“おもてなしの心”をいつも胸に
地元を愛し、愛される企業でありたい

「くりーむパン」で知られる、県内有数の食品メーカー「八天堂」。創業から80年以上経った今なお、歩みを止めることなく新たなファンを増やし続けている。会社の魅力について、若手社員2人に話を聞いた。

若手が
多い
元気が
社風
会社を
より
良く
変えて
いく

—まず、入社の経緯や会社の魅力、仕事のやりがいについて教えてください。

早川:もともと僕は三原で生まれ育ち、大学進学で東京に出ていましたが、就職は地元でと考えていました。食べるのが好きなので、食品に関連する仕事で。

中山:同じく私も食品関係を志望していました。

短大時代に総合生活デザイン学科を専攻していて、フード、観光、ビジネスなどを総合的に学んだのでそれらの知識が生かせればと。会社説明会の時に、先輩たちがキラキラと輝いて見えたのも入社を決め手になりましたね。

早川:確かにそれはあるかも。僕も明るくて活気のある会社だなと感じました。

中山:20代の社員が多いので、元気な雰囲気ですね。実際若手にどんどん新しいことを任せてくれる社風です。

早川:僕が入社した時は、今ほどたくさん部署がなくて、新入社員の8割ぐらいは製造部からのスタートでした。製造に関わることで商品の良さを実感できたのは良かったです。中山さんは最初からEC事業部？

中山:そうですね。2020年に入社してすぐに配属されました。EC事業部はインターネット通販に関する業務全般を請け負っていて、お客様相談窓口も兼務しています。

早川:カフェリエの店長を務めているのでお客様の声はすごく気になります。

中山:嬉しいのは「おいしい」という感想や「ギフト

トにして喜ばれた」というお声ですね。厳しいご意見をいただくこともあります。そこは私たちに改善の余地がある部分ですし、大変ありがたいと思っています。

早川:いろいろな意見を取り入れていくことで、すごく大事。カフェリエではスタッフ同士が意見を出し合える場を大切にしているのだけど、2020年に新設された「空の駅オーチャード」「天空カフェ」の店長ともチャットグループで意見交換しています。

中山:チャットグループいいですね！

早川:気軽に話せるのがいいんです。例えばコラボイベントだったり新メニューだったり、施設全体の方向性を一緒に考える時に使います。スタッフのマネジメントについても相談しますね。お客様相談室に寄せられた声は、各部署にフィードバックしてくれていますよ。

中山:はい、いただいたお声は必ず関係部署に伝えます。これは私たちEC事業部に寄せられた声ですが、お客様があるサイトで購入した際に紙袋の選択欄がなかったそうです。「贈り物にしたいので紙袋がほしい」というご意見をいただき、すぐに注文ページ内に紙袋のチェック項目を設けました。

早川:いただいた意見が改善につながったんですね。自分たちの行動で会社が良い方向に変わるの大きなやりがいですね。

地域とともに
成長する
八天堂流
ホスピタリティ

—三原の代表的な企業として地元に対する思いを聞かせていただけますか？

中山:三原の良いところはいろいろあるんですけど、やっぱり海もあって山もあって、自然が豊かなところですね。

早川:三原は観光資源が実は多いんです。カフェリエがある広島空港の近隣だと三景園や森林公園など……。ぐるりと周遊して、いろいろ併せて楽しめるのがいいと思います。緑が多くて気持ちが良いので、バイクツーリングをしている人もよく見かけます。立ち寄りスポットのひとつとして、八天堂にもぜひ足を運んでもらえたら嬉しいです。

中山:「空の駅オーチャード」と「天空カフェ」も好評ですね。

早川:それぞれの店舗で取り扱っているメニューが違うので、いろいろなメニューを食べ比べてみてほしいですね。「カフェ」と「アトリエ」を融合した店名通り、カフェリエではパン作りの体験教室が人気です。空の駅オーチャードは、三原の特産がそろっていますよ。

中山:週末はすごくたくさんのお客様が来られますよね。屋外に設置してある、飲食できるドームテントは写真映えますし。

早川:敷地内の施設だけでも特色が違うので、いろいろな思い出が作れるかなと思います。また、広島空港が近いので、県外からのお客様も多いんです。自分たちの会社はもちろん、周辺施設や三原市内のさまざまな情報に詳しくなって、訪れたお客様に三原の良さを丸ごとご案内できるようにしたいですね。

中山:私もそんなふうになりたいです。今もいくつか置いてありますが、施設内に三原のマップや他施設の案内を充実させて、ここから情報発信していけたらいいですね。あと、八天堂は地域貢献にもすごく力を入れていて、やっさ祭りなど地元のお祭りへの出店や、近隣小学校の児童考案レシピをもとにしたコラボメニューの開発も行っています。

早川:2020年は新型コロナウイルスの影響でお祭り自体がなくなってしまいましたが、楽しみ



にしてくださっているお客様も多いので、また出させてもらいたいですね。コラボに関しては、小学校だけでなく大学との連携もありましたよね。

中山:はい。広島国際大学さんと宗越福祉さんと3者連携してパンデコのワークショップを行いました。パンデコはパン生地を使って写真立てやオブジェなどアート作品を作るのですが、高齢者の方にとって介護予防やコミュニケーションツールになるため心も体もより元気になってほしいという思いで行っています。製作時にはパンの良い香りがするので、五感で楽しめるイベントと好評でした。

早川:良い取り組みですね。
中山:また、少しずつ新しいイベントが再開できるように企画を考えていきたいです。

早川:社長の森光も地元に対する思いがとても強いので、自然と私たちも地元を良くしていきたい！と思うようになった気がします。

中山:確かにそうですね。入社時に社長が三原への思いを熱く語った姿は今でも忘れられません。これからも会社全体で地域に根差して頑張っていきたいです！





STORY 19

三次元測定機など 最新の機器を扱うプロに成長

かねもと たける
兼本 武生 (33歳)

2017年入社

三原市立第一中学校・広島県立三原東高等学校 出身

中学・高校時代、パソコンでエクセルを使って表を作ったりするのが好きで、将来はパソコン関係の仕事がしたいと考えていました。この会社に入社したのは、自分が扱ったことのない最新の機器が導入されていて、興味を持ったからです。現在は、三次元測定機を使って金属製品が図面通りにできているかを検査する工程に携わっています。精密機械の部品なので、0.01mmでもずれていたら省かなければなりません。製品に合わせて自分で機械を動かすプログラムを組むのですが、それがうまくいって順調に検査が進むとやりがいを感じます。ベトナム人とドイツ人のチームの責任者として、彼らに分かりやすく伝えることも常に意識しています。これから新しい三次元測定機が導入されるので、また勉強して使いこなせるようになりたいですね。



休日の過ごし方



2人の子どもとネックレスを作ったりして楽しんでいます

5歳の娘と1歳の息子がいるので、休みの日は一緒に公園に行ったり、ネックレスや指輪を作ったりして遊んでいます。仕事でのものづくりとは全く違い、リラックスして楽しんでいます。以前は夜勤のある会社に務めていましたが、子どもができたことで、日勤で19時頃には帰宅できるこの会社に転職しました。家族との時間を大切にできて満足です。

技術とアイデアで国内屈指の超精密加工を手掛ける企業

パソコンやスマートフォンに使われる半導体を作るための装置の部品や、がん治療や非破壊検査に必要な加速器など、人々のより良い暮らしに欠かせない金属製品を製造。国内でも指折りの超精密加工を得意とし、技術とアイデアを組み合わせた特許も複数取得している。顧客からの注文に基づき、自社で設計から加工・検査までを一貫して担えるのが強み。加工や検査を担う最先端の機械を導入するとともに、それを動かす確かな技術力を備えた社員たちに支えられている。



三次元測定機を使って検査



科学研究機器の受託開発などを行う

STORY 20

お客様と会社を結ぶパイプ役に 目指すは“稼げるお父さん”

まえだ しゅんた
前田 隼汰 (26歳)

2017年入社

三原市立本郷中学校・大阪産業大学附属高等学校 出身

大学の先生から現在の会社を紹介してもらい、仕事内容を調べるうちに、香料が暮らしを豊かにしていると知り興味を持ちました。当初は製造部で充填作業に携わり、現在は生産管理部で原料の購入や調達を担当しています。確かな品質の製品を納期に確実に間に合わせることが使命なので、品質保証部、製造部とスムーズな連携が取れるよう掛かっています。平成30年7月の豪雨災害の際には停電と断水のため製造ができなくなるという危機がありましたが、東日本大震災を乗り越えた親会社の高砂香料工業の協力支援とノウハウを授かり、無事に製品を供給し続けることができました。今後の自身の目標は、大きな一軒家が建てられるような、しっかり稼げるお父さん。与えられたポジションを全うし、管理職を目指していきます。



休日の過ごし方



家族で買い物や遊びに出掛ける、何気ない休日が幸せ

学生時代は野球一筋だったので、今でも三原のソフトボールチームに入り練習に汗を流しています。同じ会社の人も数名在籍していて、社外でも仲良くさせてもらえるのがありがたいです。また、仕事へのモチベーションは、何と言っても子どもの笑顔。家族で遊びに出掛けたり、両家の実家に孫を見せに行く休日が本当に幸せだなと感じます。

業界での実績と風通しの良い職場環境が魅力

香料分野で売上国内トップクラスの『高砂香料工業』が100%出資する、西日本初の生産拠点。グループ企業として食品向け香料製造の中核を担い、国内外の食品メーカーに香料を供給している。私たちが口にする多くの商品に利用される安全・安心な香料を製造し、そのアイテムは非常に多い。また、若い従業員が多く活気溢れる雰囲気。シャワールームのある更衣室や、テニス、フットサル向けの多目的コートなど、従業員が楽しく働けるような設備が充実しており、社内行事も多数。



休憩室などを備えた厚生棟が完成



年間約3000t超のフレーバーを生産



STORY 21

安全でおいしい物を効率的に作り、
西日本一の工場へさいち たくや
最知 匠矢 (29歳)

2014年入社

三原市立宮浦中学校・広島県立尾道北高等学校 出身

子どもの頃から生き物と食べることが好きで、将来は食や生き物に関する仕事がしたいと思っていました。鹿児島大学の水産学部で学び、教授から勧められてタカノブ食品に就職。主に広島県産のかきを扱う会社ですが、私は定塩鮭^{ていえんまけ}の製造管理を担当しています。定塩鮭には「あごだし」や「昆布エキス」など、トレンドによってさまざまな商品があり、依頼元である食品会社の担当者が作ったレシピを元に、私が工場ですべての工程を検査します。担当者と共に製品を考案することも多く、自分の意見が採用されることも。西日本で一番の生産量^{はこ}を誇る工場にするという目標に向かって、効率化やコスト削減を考慮しつつ、消費者の皆さんが残さず食べられる、安全でおいしい物を作ることを目指しています。



休日の過ごし方



オフロードバイクで山に登り、昆虫採集するのが趣味

乗り物が好きで、休日にはオフロードバイクや車で自宅近所の山に登っています。自然の中をバイクで走るのはとても気持ちがいいですよ。自宅で大型のトカゲを飼育しているので、山でエサになる昆虫も採集して帰っています。昆虫採集は子どもの頃から好きでしたね。このほか、三原市にはおいしいラーメン屋さんが多いので、食べ歩きも楽しんでいます。

広島県産のかきをメインに扱う水産技術のエキスパート

地元・広島県のかきを使用した冷凍のカキフライをメインとする、水産冷凍食品を製造するタカノブ食品。充実した冷凍設備を用いた高度な冷凍技術で、おいしく高品質な製品を、季節を問わず提供している。本社の府中工場をはじめ、三原市に三原工場と小原団地工場、呉市に安浦工場を構え、自社商品だけでなく、大手食品会社のニーズに合わせた多彩な製品を製造。昭和45年の創業以来、培ってきた水産技術のノウハウを生かした、安定したモノづくりで顧客の信頼を集めている。



企画書や原料の依頼書も作成



日々おいしい定塩鮭を追求

STORY 22

コロナ禍で医療用ガウンを加工
技術を生かして社会貢献きもと ひろゆき
木本 裕之 (32歳)

2013年入社

広島大学附属三原中学校・私立如水館高等学校 出身

小学生の頃からサッカー選手を目指し、中学時代にはクラブチームで全国大会にも出場。サッカーを通して、チームの仲間と協力することの大切さを学びました。この会社に入社したのは、友人に「新しいことに次々とチャレンジしている会社」だと紹介されたからです。現在は、ラミネート加工製造の第一工程である、樹脂の粒を溶かして、薄く筒状に伸ばしてフィルムを作り、さらにそのフィルムを細かく切ってフラットヤーンと呼ばれる糸を作っていく工程を担当しています。当社が製造するラミネート加工製品にはさまざまなものがあり、コロナ禍で、当社では医療用防護ガウンの加工も担当しました。僕は最終製品を作っているわけではないので目にすることはないのですが、仕事を通して社会貢献できていることを日々実感しています。



休日の過ごし方

子どもが生まれ、家族との時間を大切にしています

まだ子どもが生まれて間もないため、休日には三原・福山市内にあるお互いの実家へ子どもを連れて帰っています。子どもがもう少し大きくなったら、家族でいろいろなところに遊びに出掛けたいですね。家族のために一生懸命働き、将来は家を建てるのが夢です。職場と自宅や実家が近いので、家族を大切にしながら公私ともに充実させることができている。

高い技術力で創業以来、売上を伸ばし続ける成長企業

ラミネート加工製品を手掛け、重袋、包装資材、農業資材などさまざまな販売先に向けた多品種少量生産を実施。ニーズに応える高い技術力と自社内での一貫生産体制を生かし、昭和52年の創業以来、売上を伸ばし続ける企業だ。最新鋭の設備を導入し、技術開発、品質管理・納期管理に努めている。平成25年には三原に工場を新設して資材の内製化を行い、さらなる品質向上と新分野への進出を実現。令和3年夏には三原第二工場の操業を予定するなど、着実に成長を遂げている。



三原工場では、糸の製造から織物の織り上げまで一貫生産で行う



尾道本社では、最新鋭の設備を導入し、技術開発・品質管理を徹底



STORY 23

製法や原料からこだわり、おいしく 安全・安心な豆腐づくりを考えています

椿き家は昔ながらの大豆・水・にがりだけを使った、無添加の豆腐や大豆製品を作り続けているメーカーです。社長の折笠廣司は、北海道は十勝の農家で生まれました。当時5歳だった折笠少年は、農薬が原因で胃潰瘍を患いました。10代後半まで症状は続き、少年は農薬に怒りを覚え「安全で安心できる食品づくり」を志すようになり、無添加の豆腐づくりにこだわる「椿き家」を創業するに至ったのです。

当社の製品は、にがり以外の添加物は一切使用せず、大豆と水とにがりだけで生産しています。

豆腐は豆乳に凝固作用を持つ成分(凝固剤)を加えなければ、固まりません。この凝固剤が「にがり」なのですが、一般的に販売している豆腐の中には、にがり以外の凝固剤を用いた豆腐もあります。と言うのも、「にがり」は瞬間的に凝固するため、扱いが難しいのです。他にも品質改良剤、PH調整剤といった添加物や消泡剤を生産性を上げるため使用することが多い中、当社ではこれらを一切使用せず豆腐づくりを行っています。

近年、食品の安全性が声高に叫ばれており、今後も益々注

目されていきます。創業当時より、おいしく安全で安心できる商品づくりを行うことを当社の理念として事業を営んでまいりました。その理念こそ、他社に負けない強みとなっています。そして、そのような理念を持ち続けることが最も大切で、私達の存在意義はそんな地味なところにあると思っています。安全・安心な豆腐づくりで日本一になるのが私達の夢です。



豆腐、おから、豆乳の製造販売

豆腐、おから、豆乳の製造販売を行う椿き家。同社における豆腐づくりの基本は「安全で、安心できる、おいしい豆腐」ときわめてシンプル。

シンプルだからこそ、原料に用いるのは国産大豆だけ。もちろん非遺伝子組み換え大豆で、生産者が栽培管理する身元の確かな大豆を100%使用している。また、にがり以外の添加物は一切不使用。さらに、栄養分を逃がさないよう、水にさらさない充填パックを採用するなど工夫している。

商品の出荷先は、日本全国のスーパーや生協、飲食店など。製造技術・品質管理・営業部など、部署を問わず社員一丸となり、これからも安全安心な商品を届けていく。



栄養豊富なさまざまな商品を製造

STORY 24

多くの人に驚きや感動を届ける 冷凍食品を作りたい

むらかみ まなみ
村上 真奈美 (24歳)

2019年入社

福山市立城北中学校・広島県立福山明王台高等学校 出身

料理や食べるのが好きで、中高生の頃から家でおみそ汁を作ったりしていました。福山大学で栄養学を学んだ後、都吹への入社を決めたのは、当社の商品であるたい焼きやワッフルを食べ、そのモチモチとした食感に感動したからです。現在は、コンビニなどで販売されるトレー総菜のメニュー考案や試作から、広告・商品パッケージの撮影まで携わっています。ターゲットや当社の工場で製造ができるのかなど技術的なことも考慮して作っていくのは大変ですが、形になって店頭と並んでいるのを見ると、とても誇りに思います。普段の生活の中でも、お店でどんな総菜が手に取ってもらいやすいのかをチェックして、いつも料理のことを考えています。1日も早く知識と経験を身に付け、多くの人に愛される商品を作りたいと思っています。



休日の過ごし方



大好きなマスキングテープを見ているだけで心が満たされます

マスキングテープが好きで、ときどきマスキングテープのイベントにも出掛けています。イベント会場には素敵なマスキングテープがあふれているので、すぐときめきます(笑)。買ったマスキングテープで家具などをデコレーションすると、とてもかわいくるので楽しいです。ほかにも、ゲームをしたり、動画を見るのもリラックスにつながっています。

独自の冷凍技術と国内最高レベルの品質管理体制が強み

解凍後も食感変化が少ないことが特徴のオリジナル冷凍技術と国内最高レベルの品質管理体制を強みに、冷凍食品の都吹として業界内で確固たるポジションを構築。日本を代表する大手食品会社の受託生産を数多く手掛け、スーパーやコンビニなどで広く手にすることができる冷凍食品を製造している。主な商品は、たい焼き、今川焼、ワッフル、豆腐製品、豆腐加工製品、鶏肉製品、総菜など。「安心・安全」を基本に、おいしさを追求した幅広い商品を全国に届けている。



メニューの考案、
広告・パッケージの撮影なども行う



独自の生地で作成した商品は、
冷たたくもふんわりした触感



STORY 25

得意の英語を生かせる海外営業、 将来の夢に向けて営業や経営スキルを磨きたい

ありもり かなこ
有森 香奈子 (26歳)

2017年入社

学校法人 安田学園 安田女子中学校・安田女子高等学校 出身

中学生の頃から英語や洋楽が好きで、海外旅行や海外の友人をつくって英会話を習得。高校時代にはダンスサークルに所属し、自らの活動を通して人々に元気を与えることに興味を持ちました。英会話を生かして海外で仕事ができる企業ということでこの会社を選びました。営業部でお客さまからのお問い合わせや見積もり対応、サービスの提案をしています。入社3年目で、海外での大手企業へのプレゼンにもチャレンジ。月1回は海外出張があり、その土地の文化に触れることも楽しんでます。特殊なサービスで専門知識が必須なので、社内の勉強会で知識を深め、お客さまへの信頼を大きくすることが目標です。将来は、家庭と仕事を両立できるように営業や経営スキルアップを図っていきたくて考えています。



休日の過ごし方



行きたい場所、挑戦したいことがたくさんあります

行ってみたい場所がたくさんあるので、休日にはあちこちに出掛けています。同僚とテーマパークに行ったり、入社して始めたスノーボードにももっと挑戦したいと思っています。仕事でシンガポールに行ったときにも、空き時間には一人で街を歩き回っていました。今後は休暇を使って、東南アジアを旅行したいなと思っています。

船や橋の検査サービスを国内外で提供

船や橋などの構造物に特化した精密検査(非破壊検査)のエキスパート「テクノス三原」。国内に7拠点、フィリピンと中国にも事業所を持ち各地で検査サービスを提供。船のハッチカバー(荷物を乗せる部分を覆うふた)の気密検査は世界シェアナンバー1。ドローンを使った検査や、環境保全のために国際的に規制が進む船の重しとなるバラスト水の水质検査など、新技術や時代のニーズをくんだ新事業にも積極的に着手。社員の「やりたい!」という気持ちを応援する企業風土がある。



世界シェアナンバー1のハッチカバー気密検査



三原市にある本社を含め、国内外に9拠点を持つ

STORY 26

災害をきっかけに夢が大きく変化 陰ながら人を支える製造業に

しみず こおき
志水 虎王貴 (19歳)

2020年入社

三原市立第五中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

中学時代の夢はお笑い芸人になること。人を笑顔にしてその場を盛り上げることに全てを捧げていました。高校2年生の夏、西日本豪雨災害に遭い、その夢は大きく変わりました。自分に何ができるのかを考える経験を通して、「陰ながら人を支えたい」と思うように。高校の教育目標にあった「地域社会に貢献する」が心に響き、生まれ育った三原に恩返しをしようという思いが強くなりました。高校の近くにあったこの工場で飲料用の容器を作っていると知り、陰ながら人々の生活を支えるこの会社の一員になりたいと思い就職。今は飲料用PETボトルの製造工程を担当し、機械にトラブルがあったときは、正しい判断と素早い対応が求められます。仕事に必要な知識と技術を身に付け、資格の取得にもチャレンジしていきたくてです。



休日の過ごし方



先輩に勧められて始めた「釣り」は飽きることはありません

会社の先輩方に勧められて釣りを始めました。釣り上げたときの快感が忘れられません。時期によって釣れる魚が変わるので飽きることがなく楽しいです。自宅で過ごすときは、漫画を読んでゆっくりしています。休日は屋内外で楽しく過ごして心身をリフレッシュ。今後はバイクにも乗ってみたいと思っています。

生活に欠かせない容器製造で暮らしに貢献

母体となる「東洋製罐株式会社」は1917年の創業以来、飲料缶やPETボトルなど食べ物から生活用品まであらゆる包装容器を生み出している会社。国内外の容器需要に応えるため国内45社、海外52社で構成され、国内に15の事業所を持つ。製造拠点の広島工場では、主に飲料用のアルミ缶、PETボトルの中間資材を製造している。新入社員全員が3年間の教育カリキュラムを受け、仕事や社会人として必要な知識をひと通り身に付ける。階層や職種別研修など教育研修制度が充実している。



綿密なチェックでトラブルを防ぐ



1973年創業の広島工場



STORY 27

日本のものづくりを支える誇りを胸に、 金属加工技術の習得を

ますもと ゆうひ
増本 湧久 (21歳)

2018年入社

三原市立本郷中学校・広島県立三原東高等学校 出身

子どもの頃から車が好きだったこともあり、車に付き物の塗装の分野に就職したいと思っていました。自宅から車通勤できる会社を探していたところ、ニホンケミカルに勤務していた知人から「工場を見に来ないか」と勧められ、何も分からないまま見学。そのとき、自分の働いている姿を何となくイメージできたことを今でも覚えています。また、平均年齢が30代後半と若い世代が活躍する様子も印象に残りました。入社してすぐに職場に溶け込めたのは、社交的な性格だったからかも。現在は、クレーンで鋼材を加工機械まで運ぶ「送りの作業」を担当。機械の設定やメンテナンスにも携わりながら、同時に新入社員の指導にも当たっています。これからも「日本のものづくりを支える」プライドを持って、努力していきます。



休日の過ごし方



愛車「シボレーC1500」の手入れ&ドライブでエンジョイ

高校の先輩が所有していた名車「シボレーC1500」に乗せてもらい、いつかは自分もと購入を決意。高校三年生のときにアルバイトで貯めたお金を頭金にしてローンを組み、1997年製を手に入れました。休日は、その愛車の手入れやカスタマイズに熱中したり、さまざまな海道をドライブしたり、全国で開催されるアメ車のイベントに出掛けたりします。

社員全員で「できる」を実現する金属加工のプロ

1967年、造船の町・尾道市に創業した株式会社ニホンケミカル。造船、橋梁、プラント、建築、鉄道、航空宇宙など幅広い分野へのものづくりに携わってきた。現在の同社を形づくっているのは、数々の「こんなこと、できない？」を社員全員の創意工夫で「できる」に変えてきた確かな実績。豊富な経験を通して蓄積してきた高度な技術、とりわけ金属加工の技術は今日の日本の産業を陰で支え、新たな挑戦の原動力になっている。全社一丸となり100億円企業を目指す同社に期待が集まる。



ANS平鋼形鋼
6軸ロボット切断システム



ガス切断風景

STORY 28

たくさんの笑顔を生み ワクワクする商品をお客さまのもとへ

いずみ あやな
和泉 綾奈 (22歳)

2017年入社

三原市立第三中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

母が自宅によくパンを焼いていて、その手伝いをしていたことからパン作りが大好きになりました。高校卒業時、就職を見据えて「八天堂」へ見学に。社員さんが「ようこそ八天堂へ!」と元氣よく出迎えてくださり、社内の明るい感じに心惹かれ入社を決めました。現在4年目になりますが、当初より製造部に所属しパン作りに携わっています。昨年は糸崎小学校の児童がレシピ考案したコラボ商品開発に関わり、地域の子どもの食育に貢献することができました。学生時代はソフトボール部で活動し、一時はキャプテンを務めたことも。周りの人と力を合わせる大切さは身に染みしています。これからも職場一丸となり、より多くのお客さまに手に取ってもらえるようなパンを数多く生み出していきたいです。



休日の過ごし方



趣味イコール仕事。各地のカフェでパンを食べ歩き

もともと食べるのが大好きなので、趣味は各地のカフェやベーカリーで食べ歩きをすること。社会人になってからは、リサーチも兼ねてさまざまな有名店を訪れるように。遠くは島根や岡山へも足を運び、気に入った店舗のメニューは写真に収めたりもします。味や見た目はもちろん、いいなと感じたアイデアを仕事に生かしていきたいです。

全国区で名を知られる「くりーむパン」の老舗

名物「くりーむパン」をはじめとする食品製造で知られる老舗。とろける食感のパンは県内外問わず多くのファンを持つ。2016年、おもてなしをテーマに新設した体験型ショップ「カフェリエ」ではパン作り体験やイベントを通じ、新しい形で商品の魅力を伝えている。また、スキルアップ制度の導入や女性活躍の推進、働き方の多様化など、職場環境の整備にも力を入れており「やりがいを持って働き続けられる会社」の呼び声が高い。



非日常体験のできる「カフェリエ」



カフェリエ内にある八天堂本店



STORY 29

自分の仕事がかたちになる。 毎日成長を感じられ、一流を目指せる会社

ふじた かずあき
藤田 和明 (26歳)

2017年入社
三原市立第二中学校・呉市立呉高等学校 出身

「作る仕事したい」と思ったのは高校3年生のとき。作りたい物を探中で、住宅にたどり着きました。一つとして同じ物がなく、多くの人が携わり作ることに魅力を感じたからです。この会社を選んだのは、地元で地域貢献をしている会社として知っていたから。現在はタカシン・ホームの工務部で、家づくりの工事が着手できるように準備し、工事がスムーズに進むようにスケジュールや品質など住宅管理をしています。お客様とコミュニケーションをとり、家づくりの感動を共有できることにとってもやりがいを感じ、お客様の思いを気軽に話して頂けるよう、笑顔大切にしています。いい家づくりは笑顔から。思いやりをもって人を大事にする。会社で最初に教えてもらいました。経験を積み、一流の建築人として地域貢献することが目標です。



休日の過ごし方



ソフトボールの仲間と練習、休日も仕事もチームプレー

小学3年生から高校卒業まで野球をしてきて、社会人になってからはソフトボールを始めました。クラブチームに所属して、休日は練習や試合があります。チームのメンバーと悔しさや喜び、楽しさを分かち合えるのがうれしいですね。「趣味も仕事も人生!」としてチームプレーを楽しんでいます。

郷土愛を育み、未来を築く。「ハラグループカンパニー」

ハラグループカンパニーは、施設などの大型建築を行う関西住建株式会社、「ピンクの看板」でおなじみのタカシン・ホームを中心に、窓などを組立て取付けを行う職人部隊の原建具工場株式会社、コメダ珈琲店の運営などを行うタカシン・コロポ株式会社の4社で構成し、幅広く事業を展開しているグループ会社だ。グループの起源である原建具工場が1965年に創業し、現在は三原市を中心に広範囲にわたる事業の展開を行っている。綿密なスタッフの連携やお客様や協力業者様への心配りができる「人間力」と、グループ会社の「会社力」が強み。 関西住建 <http://www.kansai-jk.com/>



地域No.1の住宅着工棟数
※尾三地区2019年度実績



三原本社ショールーム



STORY 30

スタイリストとして、 一人でも多くのお客さまを笑顔にするのが夢

いば りょうすけ
射場 涼介 (21歳)

2018年入社
三原市立第二中学校・広島県立三原東高等学校 出身

親戚に美容師がいたこともあり、美容の専門学校に進学。職場体験でこのサロンに来て優しく接してもらい、「働くならここだ」と心に決めました。現在はアシスタントとして、カットやパーマをするスタイリストのサポートをしています。その日の予約状況を確認して、その日の動き方を考えます。営業が始まると、状況を見ながら手が足りていないところに駆けつけます。状況を察して動く役割は慣れるまでは大変でしたが、先輩たちを観察して動き方を身に付けました。頑張り次第で任せられる仕事が増えますし、仕事の結果がお客様の反応ですぐに分かることにもやりがいを感じています。理容と美容の両方を勉強できるのも他店にはない魅力です。夢はスタイリスト。お客さまを笑顔にする自分を想像してワクワクしています。



休日の過ごし方



根っからのインドア派、家でゲームを楽しんでいます

休みの日は、家にこもってゲームをして過ごすことが多いです。子どもの頃からやっていて、趣味として楽しんでいます。根っからのインドア派なので、これからはアウトドアの趣味も持たたいです。サロンの先輩がスノーボードをしているので、挑戦してみたいと思っています。

三原で30年以上、地元やメーカーの信頼が厚い実力店

三原市にサロンを構えて30年以上、地元でおなじみの実力店。広い店内は美容院ブースと理容院ブースに分かれ、キッズスペースも完備で、男女年齢問わず人気だ。美容メーカーからの信頼も厚く、最新技術や注目のスタイルをいち早く提案することができる。市内では同店だけというトリートメントメニューも評判。店名に込めた思いは「カラフルなパレットのように、いろんな人いろんな色が集まる場所に」。スタッフ同士も仲が良く、声を掛け合うにぎやかなサロンだ。



県道沿いにあり、オシャレな外観が目立つ



自然光がたっぷり差し込む心地良い空間



STORY 31

自然と人が共存する 美しい景観づくりに貢献したい

ほりのぶ なおたか
堀信 直孝 (26歳)

2017年入社

竹原市立竹原中学校・広島県立竹原高等学校 出身

建築士を目指して福山大学の建築・設計学科に入ったのですが、苦手科目の勉強についていけず、夢を諦めていました。そんなときに知ったのが当社です。美建工業は、土手を補強するブロック擁壁や排水のための側溝などを作る会社です。僕はチームの責任者として、側溝に入れる鉄筋の製造や、型枠から脱型して組むまでの工程を任されています。チームのメンバーの能力を最大限に生かしながら、納期までにきちんと仕上げるのがやりがいです。以前、祖父の家の裏が土砂崩れに遭ったとき、補修工事で当社の側溝が使われているのを見たときには、誇らしい気持ちになりました。今後は、工場全体を1人で動かせるような広い視野を身に付け、より一層地域の安全で整備された景観づくりに貢献していきたいです。



休日の過ごし方



休みの日は外に出て季節を身近に感じています

自然の景色を見るのが好きで、春なら桜の名所、夏は海、秋には山などによくドライブしています。写真は秋に行った三原市の三景園。水面に映える紅葉がきれいだったので撮りました。季節を肌で感じるだけでも満足ですが、自然の写真を撮るのも楽しいですね。仕事で少し疲れているときにも、自然に触れるとすぐリフレッシュできます。

50年以上の歴史を持つ県内トップクラスのコンクリートメーカー

1967年に創立し、広島県全域に工場・営業所を構える、県内トップクラスのコンクリートメーカー。側溝、擁壁、河川などの環境保全型ブロック、雨水枡などの排水関連製品など、自然環境を考慮し、人々の安全といのちを守る重要なインフラ製品を製造し、地域社会に貢献している。広島県働き方改革実践企業にも認定され、残業がほとんどないなど、仕事とプライベートをしっかりと切り替えられるのも特徴。社員だけでなく社員の家族も大切にしている会社だ。



県内のさまざまなところに使用されている



製造や脱型などの工程を行う

STORY 32

住のプロフェッショナルになるのが夢 経験と知識の吸収に努めています

ひらはた よしたか
平畑 嘉鷹 (30歳)

2012年入社

三原市立久井中学校・国立呉高等専門学校 出身

子どもの頃から家業である建設業が身近でした。高等専門学校で設計の仕事を知り、ゼロの状態から大きな建物をつくる仕事へのあこがれが強くなりました。大手ゼネコンで修業した後にこの会社に入社。小さな物件から担当し、先輩に教えてもらいながらできる仕事を増やしてきました。今ではお客様との打ち合わせ、設計、そして工事現場を管理する現場監督として建物が完成するまでの全てを担当。建物にはデザイン、機能性、住環境、構造、法律などさまざまな要因があります。これらを踏まえて、お客様の要望をかなえる提案や施工をすることにやりがいを感じています。生きる上で大切な衣食住の一つ、住のプロフェッショナルになるのが夢。そのために、建築に必要な上級資格の取得に向けて日々勉強しています。



休日の過ごし方



休日は子育てに集中、家族と楽しく過ごしています

会社が働き方改革に積極的なので、社員一人ひとりの家庭の事情に合わせて休日を設定できます。私は土曜・日曜の休日を利用して、家族と一緒に楽しく過ごしています。子どもが1歳になったばかり。広島市内に買い物に出掛けたり、動物園に行ったりします。隙間時間にスマートフォンで資格取得の勉強もしています。仕事と家庭を両立できる職場です。

建築、土木、不動産のプロ、地域の困りごとを解決

この地に創業して約60年、「住まいのことなら平畑さんへ」と地域に頼りにされる会社。一般住宅の新築やリフォーム、店舗や工場、学校や交番などをつくる建築業、道路や河川の工事を行う土木業、さらに地域の土地や建物の売り買いを行う不動産業にも携わる。自社で広報誌を発行し続けて約20年、地域に20,830部を配布。培ってきた技術とノウハウで、地域の住まいの困りごとを引き受けている。働き方改革認定業者として個々の事情に合わせた働き方ができるのも魅力。



交番を新築するための基礎工事



木造や鉄骨造などさまざまな建築を扱う



STORY 33

三原や広島の良いさを伝え、 思いやりと笑顔をお届けするホテルマンに

たくち ひ な こ
田口 陽南子(21歳)

2018年入社

三原市立本郷中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

高校で保育や福祉について学んだことで、思いやりと笑顔をお届けする仕事に就きたいと思うようになりました。毎日たくさんの人に届けられる仕事としてサービス業に興味を持ち、ホテルマンを目指しました。このホテルに決めたのは、三原の良さを多くの人に伝えられると思ったからです。現在、料飲統括部に所属し、ホテルの飲食店の予約管理や会計、ホテルにある和食店での接客を担当しています。毎日、お客さまと出会い、誕生日や記念日でのサプライズ演出に携わるなど、特別な日を一緒にできることがうれしいです。お客さまにホテルでの時間をもっと楽しんでいただけるように、和食の専門用語や調理法などの知識を身に付け、自信を持って接客できるようになりたいです。お客さまに信頼され、親しみやすいホテルマンを目指しています。



休日の過ごし方



友人とおいしいものを食べて明日から頑張る力を補給

休日は友人とおいしいものを食べに行きます。行きたいお店を探すのが好きで、SNSでチェックして情報をストックしています。出掛けた先でサービスやメニュー開発のヒントを見つけ、私が提案したサービスが採用されたこともあります。おいしいもの巡りは仕事を頑張る原動力にもなっています。

空港そばのホテル、安定した業績が強み

広島エアポートホテルは、広島市の玄関口、広島空港に隣接する「広島エアポートホテル」と、水と緑に囲まれた自然環境で、非日常を味わえる都市型庭園リゾートホテル「フォレストヒルズガーデン」を運営している。空港そばというアクセスの良さを生かす安定した業績が強みの1つ。スタッフの職場環境改善のために還元され、働きやすい職場環境も確保。仕事内容は宿泊、フロント業務、レストラン、ブライダル、宴会、セールスとあり、ホテルマンに必要なスキルを身に付けることができる。



県外や海外のお客さまも多いホテル



地元の旬の味を提供する「日本料理 缸」



STORY 34

公共設備等の大型電気工事でリーダーになれる。 1級電気工事施工管理技士の取得をバックアップ!



電気設備はあらゆる場所で必要とされています。地元の公共工事あるいは地域の企業様への電気工事を通じて社会に恩返しを

していくというのが広島電気工事の企業理念です。それを実現するために、当社ではスタッフの国家資格取得を全力でバックアップしています。

公共工事等の大型工事を他社と協力しながら完成へと導くリーダーに必要な1級電気工事施工管理技士、機器の取り付けや配線作業を行うための電気工事士、消防設備士など、専門機関の教育を取り入れながら全員が取得を目指しています。2020年も新たな1級電気工事施工管理技士が誕生し、今後の活躍を楽しみにしています。

創立70周年の節目を迎えた2020年、新型コロナウイルスが猛威を振るい、誰もが先の見えない不安を感じていました。年が明けてなお感染が拡大し、暗いトンネルの中を歩いているよ

うな状況ではありますが、社員だけでなく、それを支えている家族一人ひとりを大切に、目の前の仕事に全力で取り組める、そのような企業へさらに成長したいと考えています。今、この瞬間の1分1秒を大切に、真摯な姿勢で仕事に取り組むことで、微力ではありますが地域への恩返しに繋がりたいというのが私たちの願いです。



仲間そして家族を大切に、社会に貢献できるような仕事を

1950年8月に設立され、三原の街や企業とともに歩んできた広島電気工事。近年では、主に広島県内の公共工事で実績を上げている。

工事の内容としては、「市庁舎や消防庁等の新築電気設備工事」、「学校等の電気設備のリニューアル工事」、「トンネル照明設備工事」、「水処理施設の変電設備及び監視設備設置工事」、「非常用発電設備の更新工事」、「ポンプ所制御設備の更新工事」など多岐に及ぶ。

地元の三原市をはじめ、広島県あるいは国土交通省中国地方整備局の電気工事、さらには地元企業様の設備保守を通じて、地域に貢献できる企業を目指している。



国家資格の取得のための教育も
しっかりサポート

株式会社やまみ

身近で豊かな食生活のパートナーに やまみブランドの全国浸透を目指して



第二工場 工場長
まつひら やすひろ
松平 泰弘 (45歳)
(2016年入社)

経営企画室 課長
むねさだ まさし
宗貞 匡 (27歳)
(2018年入社)

生産管理部
さなだ ゆか
真田 裕香 (28歳)
(2020年入社)

最高の品質と、食の安全の追求

“創業のDNA”を心に刻み走り続ける

西日本トップシェア、中国地方の大豆食品メーカーで圧倒的な存在感を放っている。三原で唯一東証一部上場を果たし地域経済に貢献する「やまみ」の地元在住社員3人が会社について語ってくれた。



個々の努力で大きく成長
全国区を目標に
いざ関東圏へ

—はじめに、入社のかっけや普段の仕事内容について教えてください。

宗貞:家庭の事情で三原に移住しました。転職を考えている際に、身内がやまみのある同じ工業団地内で働いて、「良い会社だよ」と勧めてくれたのがきっかけです。

松平:僕も引っ越しに伴った転職です。子ども

に食品アレルギーがあるのですが、ある時アナフィラキシーショックを起こして救急搬送されて……。以前住んでいたところは病院まで遠く、それで市内中心部へ移り住みました。もともと製造業に就いていたので、同じ製造業で求人検索しました。

真田:私は以前、スーパーでパート社員として働いていました。事務職の正社員になりたいと考えていたこと、そしてスーパーでやまみの商品をよく手にしてなじみがあったことから、入社を志望しました。

宗貞:経緯はそれぞれですが、入社後の配属は会社の意向もあります。僕は製造部を希望していましたが、経歴を考慮して、現在の部署への配属を打診されました。経営企画室で予算の作成や情報発信を担っています。

松平:僕は希望通り製造部へ配属されました。ただ、工場長補佐や工場長という役職に就いたのは会社からの推薦だったので、仕事ぶりや人となりを見てくれたのかなと嬉しく感じています。

真田:私は経理を希望していましたが、未経験

だったこともあり生産管理部へ。原料や梱包資材の発注を手掛けています。

宗貞:現在の仕事は初めて経験する内容だったので、関連書籍を読んだり自分なりの努力をしてきました。皆さんはどうですか？

松平:僕は前職も製造業だったので、製造ラインの流れや機械操作については自信があったのですが、人の管理が……。けっこう悩みますね。

宗貞:確かに。人に対するマネジメントの難しさは、どの部署にいても同じですね。

松平:人によってどこに「やる気スイッチ」があるかが違うので、個々をしっかり理解することが必要かなと考えています。

宗貞:ほめられて伸びる人と、叱られて伸びる人といえますよね。真田さんは今の仕事をしていて、苦労や努力されたことはありますか？

真田:私は2020年に入社したばかりなので、毎日が努力の連続です。入社した時期は新型コロナウイルスの影響で売上げが伸びていた真っ最中ですね。

宗貞:ちょうど忙しい時期でしたね。手軽で安く栄養価の高い大豆製品はステイホームで需要がありました。この状態は今後もある程度続くと思うし、会社は静岡に新工場を建て、関東商圏に乗り出したばかり。好機を逃すことなく、社員一人ひとりが高い意識を持って仕事に邁進し、「全国で名の知られるやまみ」を目標にしたいですね。

苦境の中で得たものが会社の礎となり
盤石さを築く

—仕事で困難だったことはありますか。その経験を今後どう生かしたいですか？

松平:困難と聞いて真っ先に思い出すのは2018年に起きた西日本豪雨でしょうか。会社

のある小原工業団地のすぐ下には沼田川が流れているのですが、気付いたら氾濫していた。自宅には帰れないし、電気も水もストップするしで、工場内の対応に追われていました。出荷する製品を傷ませてはいけないと、冷蔵庫の電力確保に奔走しましたね。

宗貞:僕は自宅が被災して、やっと出社できたのは災害が起きて5日後のことでした。関係各所に連絡を取ったり、総会の日程調整を行ったり、イレギュラーな仕事に追われました。そして、製品供給が間に合わなかったお客様のところに社長自ら泥だらけの車で謝罪に走り回る様子をそばで見て……。改めて、僕たちの仕事の責任の重さを知りました。

真田:私はまだ入社前だったのでスーパーに勤めていましたが、次々完売する食品を間近で見て、たどごとくないと感じましたね。

松平:あの時はどこも大変だったと思うのですが、そんな中でも得るものはあったんじゃないかなと思います。製造部の僕たちは、在庫管理にいつそうシビアになりましたし、電気系統の設備を増強しないといけないと強く感じました。また、できる限り製造をストップさせないよう、関西工場へ依頼してそちらで製造を行いました。緊急時における他工場との連携の取り方を図らずも学べたかたちです。

宗貞:本社工場と関西工場、そして2019年に新設された静岡工場はすべて400km以内に造られています。これは輸送ルートとコストを計算して考えられた距離。新工場設立は豪雨災害がきっかけではありませんが、連携した際の商品輸送について見直す機会にはなりまし



た。非常時に、どれだけいつもと変わらず、同じクオリティーの商品をお客様に届けられるか。これは今後も大きな課題だと思っています。

松平:“いつもと同じように”っていうのは、製造で一番大事な部分だと思うんです。原料に違いはないか、機械の調子は変わらないか。そしてそれを自分だけではなく、皆が同じ意識でチェックしているか。工場長として、そのことは繰り返し伝えていきたいですね。

宗貞:全国での勝負に出ようという今、製造量がぐんと増えて稼働率もあがってる。けれど、品質だけは絶対に落とさない。それが企業のブランド力であり、そのブランド力を肌で感じている社員たちが「やまみで働いている」ということを誇りに思ってる。社員の家族もまた、同じように感じてくれたらいいですね。

松平:あと、僕は自分の子どもがアレルギーなのもあって、商品開発に力を入れたい。豆乳は牛乳の代替品として用いられることが多い、最近では牛乳不使用のチーズやマーガリンが開発されていると聞きます。そういうものをやまみで作ってあげたら、きっと需要はあると考えています。

真田:皆さんすごいですよね。いろんな知識があって何でも答えられて。だからこそ円滑なコミュニケーションが図れるのかな。私もまずは知識を蓄えて、戦力になれる人材を目指していきます！





STORY 35

社会貢献につながるリサイクル事業に 将来性とやりがいを

ふじおか なおや
藤岡 直哉 (30歳)

2012年入社

三原市立宮浦中学校・広島県立三原高等学校 出身

中学生の頃から漢字を書くことや現代小説を読むことが好きでした。職場体験学習では、父親が公務員ということもあって、市役所を選択。漠然とデスクワークの仕事に就きたいと思っていました。当社に関心を持ったのは、リサイクル事業の将来性。同時に、プラスチックごみの分別の啓発活動にもつながる意義深い事業だと感じました。入社して1年半ほどは現場研修で鍛えられましたが、現場の人たちに顔を覚えてもらったことで今の仕事がやりやすくなったと思います。携わっている業務は、ペレットを成形メーカーへ届ける工程や産業廃棄物の搬出工程。取引先とのやり取りや社内との調整など、人を介して社会貢献できることにやりがいを感じています。これからもリサイクルのさらなる推進に寄与できる人材を目指して頑張ります。



休日の過ごし方



アカベラサークルの活動やスポーツジム通いでリフレッシュ

現在はコロナ禍で活動していませんが、例年はアカベラサークルの一員として、広島市内の「アリスガーデン」で3か月に1度、同じく公民館で毎月2度、Jポップを歌っています。また、ランニングも好きで、スポーツジムで汗を流したりもしています。アカベラチームのメンバーでリレーマラソンに参加したときは、400チーム中80位の成績を残しました。

廃棄されたプラスチック製容器包装を新たな資源に再生

広島リサイクルセンターでは、家庭で廃棄されたレジ袋などのプラスチック製容器包装を、新たな素材「ペレット」に生まれ変わらせている。注目すべきは高精度のリサイクル技術。前処理段階で、光学式選別機がポリエチレン、ポリプロピレン、発泡スチロールなど素材ごとに選別することにより、高品質のペレットを効率よく製造できる。このペレットを材料に、成形メーカーは日用雑貨、農業・園芸資材、建築・土木資材などさまざまな製品にリサイクル。環境・資源保護に役立っている。



平成14年4月に第1工場創業



選別工程や、高度処理(遠心分離式)などさまざまな処理が行われる

STORY 36

チャレンジを重ねて ヒット家具を生み出したい

もりしげ みつお
森重 光生 (34歳)

2011年入社

三原市立第三中学校・私立如水館高等学校 出身

小学3年生から野球を始め、高校では甲子園を目指して授業と練習だけの毎日をご過ごしていました。惜しくも出場は叶いませんでしたが、仲間と喜びや悔しさを共有し一つの目標に向かう貴重な経験ができました。仕事でも仲間と一緒にチャレンジしたり、社会貢献などできたらいいなと思うようになりました。前職で製造業に就いて管理業を担当していましたが、もっと直接的にものづくりに携わりたいと思い、同社を見学した時に1本の木材が人の手によって形になっていくのに興味を持って転職しました。現在、家具職人としてさまざまな家具を作っています。チャレンジの連続です。自分で作った家具が船に乗って世界中を走っているかと思うと本当に感動します。もっとデザインや機能性を勉強し、ヒット商品を生むことが目標です。



休日の過ごし方



公園で子どもとボール遊び、家族とピクニックに

1歳6カ月の子どもがいます。帰宅して子どもをお風呂に入れることが日課です。休日は家族で公園に行って一緒に遊んだり、天気の良い日はお弁当を持ってピクニックをすることもあります。仕事を忘れて子どもと遊んでいる時に、仕事で悩んでいたことの解決法が突然思い浮かぶこともあります。

独自性の高い船舶家具が評判

昭和49年、三原市にビジネスセンターヒロヨシを開業。皆実町の文具ショップを拠点に、文具から事務用品、オフィス家具を手掛けて地域のビジネスセンターとして頼りにされている。創業とほぼ同じ時期から、船舶用家具製造・販売も手掛けてきた。船波の揺れに対応する加工や木材から図面を作成して作りあげるオリジナル家具は、丈夫で使いやすいと評判。年間5,500脚を販売するヒット商品を出している。台湾・ベトナムなどから仕入れてコストダウンを図る。多様な仕事を経験できる会社だ。



2008年に家具製造工場を設立



ここで生産した家具が船に乗って世界へ



STORY 37

読み手を意識した図面を描きたい!
一人前の設計士を目指して日々邁進つじ かずや
辻 和哉 (23歳)

2020年入社

三原市立第三中学校・広島県立三原高等学校 出身

「CAD」というシステムソフトを使い、パソコンで機械部品の製図をしています。部品形状を正しく伝えることを重視しながら、無駄な加工を省き、据え付けまでスムーズに行えるかを考慮して図面を作成。この世界で一人前になるには10年と言われ、今はまだ先輩に教えてもらいながら勉強している最中です。大切なのは、読み手を意識した製図。誰が見ても形状を把握できるシンプルな図面が描けるように、経験を積みスキルアップしていきたいです。小学生の時に見た映画「スター・ウォーズ」の影響で未来の乗り物に興味を持ち、中学時代の夢は今までの常識にとらわれない外観・性能を持った乗り物の製作に関することでした。未来の乗り物ではないですが、子どもの頃に夢見ていたものづくりの仕事に携われたのは幸せなことです。



休日の過ごし方



ゲーム、読書、お出掛けなど多彩な趣味を満喫

基本はインドア派なので、家でゲームをしたり、動画を見たり、小説やマンガを読んで過ごしています。好きなゲームは、プレステ4のバトルロイヤルゲーム「エーベックスレジェンズ」。友人の都合が合う時は、観光に出掛けることも。筆影山の山頂に登ったり、ポポロにイルミネーションを見に行ったりと、地元も満喫しています。

高い技術力を誇る、機械設計のプロフェッショナル集団

1963年の創業より築き上げた信頼と実績で、製品開発設計から組み立て現場のサポートまで行う機械設計の会社。新聞などの印刷に使われる大型の印刷機、新交通システム・車両、自動車の生産ラインなどを得意分野とし、三菱重工業や三菱自動車工業が取引先の中心となっている。各種CADを導入し、設計図の3Dに対応。高い技術力を持った経験豊富なエンジニアが多数おり、プラスワンのアイデアで顧客の幅広いニーズに応える。研修制度が充実しているのも心強い。



新人からベテランまで層が厚い



本社・三原技術センター

STORY 38

フレッシュな気持ちで業務に邁進
コツがつかめる瞬間が喜びほり てつや
堀 哲弥 (19歳)

2020年入社

三原市立久井中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

就職先で悩んでいた時、学校の先生や親戚に「近所だし、福利厚生もしっかりした良い会社だよ」と勧められ、入社試験を受けることを決めました。会社では製造部に所属し、大型の真空包装機などを作っています。製品を作る際、ものによってネジの締め方を変えるといったコツが必要になることがあり、それらが会得できた時に喜びを感じます。入社したばかりなのでまだまだ分からないことが多いですが、失敗をする前に何でも確認するようにし、少しずつ技術を身に付けていきたいです。また、今年は新型コロナウイルスの影響で、親睦会等のさまざまな行事が中止に。会社の皆さんと交流する機会が少なかったため、今後は積極的にコミュニケーションをとりながら職場になじんでいけたらと思います。



休日の過ごし方



ゲームが大好き。両親にソフトをプレゼントしたことも

友達と映画を観に行ったり、大好きなゲームをして過ごすことが多いです。家の中でするゲームに飽きたら、飼っている犬の散歩がてら公園でスマホゲームをすることもあります。実家暮らしで両親にはいろいろと支えてもらっているので、感謝の気持ちを込めて健康管理のゲームソフトをプレゼントしました。これからも一緒に趣味を楽しみたいです。

“人々の当たり前”を作り続ける機械メーカー

スーパーやコンビニエンスストアで販売されている食品、医療関連品、工業製品等の各種包装機器を手掛けるパイオニア。真空包装機や自動袋詰シール機などの機械を駆使し、あらゆる包装ニーズに応えている。また、自動化機械の設計・製造・販売を一貫して行っているのも大きな強み。包装されている商品を買うのが当たり前になっている現代で、包装機械を通じ、食の安全・安心を届けるとともに、“人々の当たり前”を提供している。



袋詰工程を自動化するシール機



確かな品質と機能、安全を約束



STORY 39

“世界のきのこ屋さん”を目指し 今注目のSDGsに積極的に取り組む

かみなかやひとみ
上中谷 瞳 (29歳)

2016年入社

三原市立第三中学校・広島県立尾道北高等学校 出身

小学生の頃から理科が好きで、大学では生物学科で菌類の研究をするなど、生き物に興味を持っていました。きのこの研究から生産、販売まで行うホクトに入社して6年、現在は商品を出荷する部署で働いています。基本はルーティンワークなので、ミスなく確実に作業することが大切。約100人のベトナム人技能実習生を受け入れており、どんなフォローができるか日々模索しながらサポートしています。会社全体では、世界的に注目されているSDGs(持続可能な開発目標)に取り組み、“世界のきのこ屋さん”を目指しています。私は広島きのこセンターの担当として、グローバルGAP認証を継続して取得できるよう声掛けなどを実施。工場見学や地元イベントなどを通して、きのこのおいしさをアピールしていくのが今後の夢です。



休日の過ごし方



恒例の会社バーベキューで親睦を深める!

家族や会社の人とバーベキューを楽しんでいます。会社では、新人の歓迎会を含め年に3回ほど開催され、社員同士はもちろん、ベトナム人技能実習生とも親睦を深めています。道の駅「よがんす白竜」で珍しい食材を探すのも好き。地元の農家さんが作った珍しい野菜を買って、週末におかずを作り置きするのにはまっています。

安心・安全を追求する、きのこの総合企業

きのこの研究・開発・生産・販売を一貫して手掛ける、日本唯一のきのこの総合企業。長野県に本社を構え、「きのこで創る健康食文化」をテーマに、よりおいしく、より健康に良いきのこを食卓へお届けする。「子どもからお年寄りまで、みんなが安心して食べられることを当たり前にした」との思いから、農薬は一切使用せず、人の手に触れない清潔な環境で生産。衛生管理を徹底し、パッケージされた商品はすべて厳しい品質チェックを行うなど食の安全にこだわる。



収穫を迎えたエリンギの生育室



大和町にある広島きのこセンター

STORY 40

障がい者と共に 明るく楽しく働く



ギアをリバースに入れた時に点灯するバックライト

私たち松尾電気は、自動車用小物ランプメーカーであるスタンレー電気(株)の特例子会社としてスタンレーグループで活動しています。

障がい者雇用は、企業として現在も今後も重要な位置づけとして社会から求められています。当社の約4割の従業員に障がいがありますが、共に明るく楽しく働いています。障がいがあっても、その人自身の強みは必ずあります。その強みを最大限に生かして働くことで、自信となり、さらなる活力が湧いてきます。当社の企業理念は「和」と「感謝」です。「和」とは身体に障がいがあっても無くても、同じ目標に向かって仕事・活動をしていくこと。自分自身とも他の人とも仲良くすることだと思います。小さなことにも感謝し、小さなことでも喜べる人。素直に感動し、「感謝」できる人ほど幸せだと思います。「感謝」する

ことでお互いの気持ちが通じ合い、地域社会にも「和」が広がっていきます。従業員一人ひとりの気持ちにうおいを与え、明るく楽しく働ける職場を提供することが、企業としての使命であり、経営の基本と考えています。会社としての強みは共に働く従業員が「人」として成長する会社であることだと思っています。



自動車用小物ランプ類を生産

主にマツダ社向けの自動車用小物ランプを生産する松尾電気。「フロントランプ」「リアフォグランプ」「バックランプ」「ライセンスランプ」「リフレックスリフレクター」などのランプ製品を、1~3名の少人数で組み立てて検査。組み立ては小さな部品を取り扱い、複雑な加工は特にない。取り扱っている製品が「重要保安部品」であるため、ルール・手順に従った作業と十分な検査が不可欠。明るく楽しい職場である一方、利用者の安全を守る製品を生産するための真面目さ、厳しさも求められる。



さまざまな自動車部品を製造



STORY 41

相手の立場に立って物事を考え、 何が必要か把握できる介護員に

おかの けんた
岡野 健太 (27歳)

2012年入社
三原市立第三中学校・広島県立三原高等学校 出身

高校生の頃、アルバイトでスーパーのレジ打ちを担当していました。僕が一番若くてレジを打つのが早かったため、「あなたのところが早くて助かるわ」と高齢のお客さまから親しまれていました。進路に迷っていた際、先生から介護職について紹介があり、「もしかしら高齢者向けの仕事が自分に合っているかも」と思い、就職を決めました。食事、入浴、排泄とさまざまな生活上のお手伝いをしていますが、大切にしているのは“相手の意をくみ取ること”。利用者さん一人ひとり身体状況も生活スタイルも異なるので、日頃から細やかなコミュニケーションを心掛け、何が必要か把握しておくことが重要です。今は指導者の立場でもあるので、自身の経験から学んだことをしっかりと後輩に伝えていきたいです。



休日の過ごし方



学生時代に成果を残したテニス。今もサークルで活動

マンガの影響でテニスを始め、中高の6年間テニス部に所属。高校3年の時にはダブルスでインターハイ5位の成績を残せるほど真剣に取り組みました。今も仕事の傍ら、社会人サークルに入っています。学生時にダブルスを組んでいた先輩も同じサークルなので、練習をしながら仕事や日々のことについて話せるのが大きな励みになっています。

誠実・確実・堅実をモットーに福祉事業を展開

特別養護老人ホーム「すなみ荘」「くすのき・めぐみ苑」、障害者支援施設「寿波苑」など、複数の社会福祉施設を運営。「誠実・確実・堅実」を三本の柱とし、利用者個々の尊厳を保ちながら自立した生活や共生ができるよう職員一丸となって取り組んでいる。未経験者が働く場合も丁寧にサポートし、人材育成や介護サービスの質の向上等、一定水準を満たしている法人のみが受けられる「魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま」に認証。



デイサービスや居宅支援事業も担う



施設内の行事も盛りだくさん



STORY 42

子どもの頃から身近だった世界的企業で モノづくりに携わる夢を実現

三菱重工機械システム株式会社 印刷紙工機械事業本部 小林 海人 (20歳)

2018年入社
三原市立第二中学校・私立如水館高等学校 出身

中学生の時、授業で習ったはんだ付けを通してモノづくりに興味を持ち、高校は機械システム科に進学。将来は、世界的に知名度の高い企業、できることなら父親が働く「三菱重工」に就職したいと思っていました。入社して10カ月間は本社のある神戸で研修。その後、三原に戻り、現場の巡回実習を経て「組立課」に配属されました。図面に従って、正しい手順や緻密な精度に留意しながら材料を組み立てるのは大変ですが、小さなモノから大きな製品が出来上がるのは、達成感を感じました。現在は、段ボールのシートや箱を製造する紙工機械を作る業務に携わっています。お客様の工場に向き、完成した製品の据え付けができて初めて一人前と言われているので、一日も早く組立・据え付け技術を身に付けたいですね。



休日の過ごし方



スコア100切りを目標に、毎週ゴルフクラブを振る

ゴルフが好きで、このところコースには出ていませんが、殆どの週末はゴルフ練習場に出掛けてはクラブを振っています。初めてコースに出たのは父親と一緒に。愛用しているクラブのフルセットとゴルフバッグは、父親からのお下がりです。スコアの目標は100を切る。多くのゴルフ場が点在している三原エリアは、ゴルフ好きには天国ですね。

先進の鉄道車両や高性能の紙工機械などを製作する技術集団

1943年に蒸気機関車および鉄道車両空気ブレーキの専門工場として発足した三菱重工三原製作所。糸崎工場、古浜工場、和田沖工場の3つの工場を拠点に活動を展開している。豊富な経験に基づいたプロジェクトマネジメントシステムとエンジニアリング力を生かし、交通システムや印刷・紙工機械を国内外に納入してきた。現在は、三菱重工グループの主要事業会社3社が各々の事業を展開。超低床車両、全自動無人運転車両、新幹線用ブレーキ、ホームドア、紙工機械など高品質の機械を手掛けている。



交通システムの主要製品、超低床車両
三菱重工株式会社 三原製作所
https://www.mhi.com/jp/company/location/miharaw/
(グループ会社)



紙工機械の一つ、製函機

三菱重工機械システム(株) https://www.mhi-ms.com/jp/
三菱重工エンジニアリング(株) https://www.mhi.com/jp/group/mhieng/homepage/
三菱重工交通・建設エンジニアリング(株) (本誌個別掲載⇒P54へ) http://mhict.mhi.com/



都市圏の駅を中心にホームドアを設置 人の命を救っていることがやりがいに

まつした れい や
松下 怜矢 (31歳)

2008年入社

三原市立第三中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

子どもの頃からモノづくりが好きで、木を切って組み立てたり、壊れたものを分解して遊んでいました。高校は電子機械科に進学しロボットなどを製作、会社に就職して13年になりますが、2019年秋に電気制御設計に部署を異動。2020年からは都市圏の駅でよく見かけるホームドアの電気設計部門の一員として現地試運転調整を担当。据え付け後、スムーズに作動するかなどパソコンで確認し誤差調整を行っています。この仕事に携わってうれしかったのは、「駅にホームドアを付けてから事故がなくなった」と聞いたとき。自分が設置したドアが間接的に人の命を救っていると知り、大きなやりがいを感じています。夢は、当社のホームドアを地元広島県内に設置することです!



休日の過ごし方



野球やソフトボールで思い切り体を動かす!

会社の軟式野球部と本郷のソフトボールチームに所属。野球部は20人のメンバーが在籍し、公式戦に向けて練習に励んでいます。2018年に行われた「高松宮賜杯第62回全日本軟式野球大会2部 三原市予選」では優勝しました! 現在は、ホームドアの設置工事で関東のホテルに滞在していますが、日々ホテルの周辺をランニングして大会に備えています。

高い技術力と安心のアフターサービスで社会に貢献

三菱重工のグループ会社。空港ビルから飛行機に搭乗するための旅客搭乗橋や、駅ホームからの転落を防ぐホームドアなど、人々の生活に密接した公共性の高い製品を提供。高い技術力と安心のアフターサービスで社会の発展に貢献する。年齢や世代の垣根なく協力し合って仕事ができ、良好な人間関係や心の健康を大切にしながら、安心して働ける環境づくりにも取り組む。2016年には、国内初のドア位置・ドア数の異なる車両にマルチに対応するホームドアを開発。



転落を防ぐホームドアなどを開発



ドアの動作チェック



生活を支えるインフラを提供 誇りとやりがいを日々実感

おがわ よう へい
小川 陽平 (24歳)

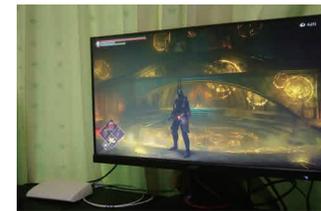
2018年入社

三原市立第四中学校・広島県立三原東高等学校 出身

中学生の頃からゲームが好きで、ゲームクリエイターを目指し、福山大学の情報工学科に進学しました。就職活動の際に、住み慣れた地元を離れたいという気持ちが強くなり、夢を諦めました。そんな中、先生が勧めたのが三原テレビ放送でした。今所属している技術部工事課の仕事は、お客さまにテレビやインターネットを快適に利用してもらうための施工・保守・管理をしています。生活を支えるサービスを僕たちが提供していると思うと、この仕事に誇りを持ってし、やりがいがあります。何よりお客さまからいただく「ありがとう」の言葉がとても嬉しく、地域の人のために仕事ができる喜びを日々感じています。今後はもっと知識と技術を身に付け、お客さまのどんな要望でも応えられるようになりたいです!



休日の過ごし方



バトルロイヤル系ゲームや、友人とのカラオケを楽しむ

ゲームクリエイターになる夢は叶いませんでしたが、相変わらずゲームが大好きなので、休日はバトルロイヤル系のゲームに興じています。やり出したら没頭しちゃって。そのほかにも、漫画を読んだり、高校時代から仲のいい友人たちとカラオケを楽しんだりもしています。得意なレパートリーはアニメソングで、「鬼滅の刃」なんかをよく歌いますね。

地域の暮らしを支え、つなぐケーブルテレビ事業

1983年に設立。三原市と世羅町で、テレビ・インターネットや自社制作の番組の配信サービスを行い、「エムキャット」の愛称で親しまれているケーブルテレビ局。2018年の西日本豪雨で氾濫した沼田川に監視カメラを設置したり、2020年に三原駅前開設したサテライトスタジオを地域のイベントに開放したりと地域の安全・活性化に貢献している。現在の加入世帯数は2万2000世帯。コロナ禍のいま、企業や教育機関のリモートワーク導入などによりインターネットの需要が増大している。



「ニュースウェーブ三原」取材風景



サテライトスタジオ「サテラス」



STORY 45

親しみやすく、組合員・利用者の皆さまに 愛される職員を目指して

いしはら ことえ
石原 琴咲 (24歳)

2015年入社

三原市立第五中学校・広島県立総合技術高等学校 出身

高校時代に部活の仲間とソフトボールに打ち込んだ経験から、人と関わる仕事がしたいと考えようになりました。JAを選んだ理由は、お休みがしっかり取れるのでソフトボールを続けられることと、一人ひとりと深く関わり合える仕事だからです。組合員・利用者さまのご自宅に伺うときは、大きな声でご挨拶するだけでも「元気でいいね」と喜んでいただけます。共済のご提案をするときには、結婚や育児など、その方の人生に触れながら一緒に考えさせていただきます。組合員・利用者さまの立場に立った対応を心掛け、「あなたが担当で良かった」と言われたときには、この仕事をして良かったとうれしくなりますね。なかには、「三原の子じゃけえ、信用するわ」と言ってくださる方も。信頼関係を築き、親しまれる職員でありたいです。



休日の過ごし方



ソフトボール三昧! 練習がない日も自宅で筋トレを

現在は東広島のチームに入り、ピッチャー、センターと1番バッターを担っています。全国大会に出場すると試合で県外にも行けるので、チームのメンバーと観光することも楽しみに励んでいます。大会前になると、仕事が終わって夜に練習をすることも。学生から年配の方まで所属するチームなので、地域のコミュニティに参加できるのも楽しいですよ。

農業の発展と安心して暮らせる地域社会づくりに貢献

人と人とのつながりを大切にした活動を通じ、将来にわたる農業の発展と、組合員・利用者さまが安心して豊かに暮らせる地域社会づくりに貢献。営農指導事業・信用事業・共済事業・高齢者福祉事業・葬祭事業など、幅広い事業を手掛けている。職員は経験年数を基にしたジョブローテーションによって他事業の業務を担当することもあり、広く深く知識やスキルを習得できる。休日など、福利厚生も充実しているため、理想的なライフワークバランスを実現できるのも特徴だ。



外回りのときは、バイクに乗って組合員・利用者さまのところへ



地域活動などに参加することも

STORY 46

ずっと支えてくれた祖父母。 今度は自分が支える側になりたい

きのした だいち
木之下 大地 (24歳)

2016年入社

三原市立幸崎中学校・学校法人尾道学園 尾道高等学校 出身

「この子は優しすぎるくらい優しいから」。共働きの両親に代わり、近くで面倒を見てくれていた祖父母が、僕について語る時の口癖でした。自分でも穏やかな性格だと思っているし、そんなふう僕を認め優しくしてくれた祖父母の役に立ちたいと、迷うことなく福祉の専門学校に進学。2年間の勉強を経て、最後の実習先でもあった「白滝園」に入社しました。はじめは特別養護老人ホームで働いていましたが、今は県内で唯一の視覚障害者施設である盲養護老人ホームでも勤務。専門的な研修を経て、両方の利用者さんをサポートしています。生活を支えることは緊張の連続ですが、「ありがとう」の言葉が何よりのやりがい。立派な介護者に、そして自慢の孫になれるよう、努力を続けていきたいです。



休日の過ごし方



釣りや散歩で休日を満喫。職場環境を考え屋外で過ごす

友人と一緒に白竜湖へブラックバスを釣りに出掛けたり、バッティングセンターで思い切り汗を流したりしています。一人だと近所をふらりと散歩してリフレッシュすることもあります。新型コロナウイルスが蔓延しているため、職場に持ち込まないよう細心の注意が必要。休日なるべく人混みを避け、屋外で過ごすように心掛けています。

子どもから高齢者まで質の高いサービスを目指す

1962年、「三原市 脳性小児マヒの子を持つ親の会」として法人を開所。以来、地域社会に貢献できる福祉を志し事業を拡大してきた。2019年「聖光みのり会」との合併を経て、障害者・高齢者の介護事業が加わり、より幅広いニーズに応える体制が確立。老人ホームや作業所、発達支援センターなど、年代問わぬの支援を行っている。現在は300名近くの職員が在籍し、有資格者はもちろん、それぞれがスキルアップを目指し自己研鑽に努めている。



特別養護に盲養護老人ホームが併設 個々の利用者の希望を大切に支援



「ありがとう」の言葉を支えに 仲間と一緒に清掃作業に励む

いなみ あたらし
稲見 新 エリザ (38歳)

2019年入社
カルロス・アウグスト・デ・カマルゴ公立学校 出身

ブラジル出身で、家族と一緒に日本に来て20年。以前は組み立て工場でパートで働いていましたが、正社員として安定した仕事に就きたいと思い転職しました。県立広島大学三原キャンパスで、学内の清掃作業を行っています。やりがいを感じるのは、学生さんや学校関係者など、周りの方から「ありがとう」の言葉をもらった時。人と話す機会が多い職場なので、日本語のポキャブラリーもぐんと増えました。同僚との距離が近く、休憩時には日本の文化から料理のレシピまで、いろいろな話で盛り上がります。楽しい人ばかりで、毎日笑いが絶えません。もっと日本語を覚えて、将来はリーダーとして人の役に立つ人間になりたい。今は朝礼の本を自宅に持ち帰り、読み方を子どもに教えてもらいながら、漢字の勉強をしています。



休日の過ごし方



登山や農業イベントなど、家族と自然の中で遊ぶ

夫と二人の子どもと一緒にのお出掛けし、休みを満喫しています。愛媛県の石鎚山へ登ったり、世羅町の大根まつりに参加して大きなダイコンを一人3本ずつ抜いて帰りました。買い物も好きで、よく道の駅「みはら神明の里」に野菜を買いに行っています。これからも仕事と家庭の両方を大切に過ごしていきたいです。

きめ細かなサービスで常に快適な生活環境を創造

1962年設立、ビルの総合管理会社。建物を維持管理するために必要な清掃、空気環境測定、貯水槽清掃、害虫駆除のほか、冷暖房設備や昇降機、電気設備などの保守点検を行っている。スタッフの明るい笑顔と、きめ細かな仕事に定評があり、三原市役所、中央図書館、しまなみ信用金庫など、地元にある数多くの会社・施設のメンテナンスを担当。女性・男性ともに、それぞれの個性や能力を発揮でき、意見や思いを職場に反映できる環境も魅力だ。「広島県働き方改革実践企業」認定。



職場は和気あいあいとした雰囲気



「快適空間の創造」がモットー



ものづくりの楽しさが原点 責任ある立場を目指し日々努力

もりとも せいや
森友 聖哉 (22歳)

2017年入社
三原市立本郷中学校・広島県立三原東高等学校 出身

学生の時はアルバイトで調理に携わり、料理人を夢見るように。「ものづくりが好き」という自身の内面に気付いたことから、就職活動で建築業界の話聞いてみることにしました。工場などの大きな建物から一軒家の改修まで幅広い仕事内容があること、それらの建物が人々の暮らしを支えているというやりがいがこの仕事を選んだ理由です。現在は先輩の背中を見ながら現場監督の業務を覚える日々。目上の職人さんも多い現場において、少しでも上手にコミュニケーションが取れるよう、真っ先に現場の清掃を担当したり、自分から進んで話しかけることを心掛けています。目指すは、一人で現場監督を行えるような責任ある立場。二級建築施工管理技士の国家資格取得に向け、勉強にも力を入れながら奮闘しています。



休日の過ごし方



映画館やカフェで地元の友人と開放的な時間を過ごす

筋トレやランニング、ゲームなど趣味は色々ありますが、地元の友人と映画を観に行ったりカフェでお茶をする時間が最高の息抜きです。友人は皆違う職種で働いていますが、社会人として抱える悩みは一緒。心許せる友人と、いつでも存分に語り合えるのは地元就職した強みだと思っています。これからもともに切磋琢磨していきたいです。

創業113年の歴史を持ち地元密着型で丁寧に対応

明治40年創業と地域に根差した長い歴史を持つ。「小さくても経営基盤の強い会社」を理念とし、一人ひとりのパフォーマンスを大切にしている。公共工事から個人邸宅まで多彩に請け負い、地域密着型企業ならではの細やかなヒアリングが得意。広島空港展望デッキ、三原市立第一中学校校舎など広く知られる建物の施工も担当。小企業ならではの小回りの良さを生かし、社員の個人的事情に合わせた働きやすい環境整備にも注力している。



社員17名でアットホームな雰囲気



丁寧・迅速をモットーに施工



STORY 49

「いつも笑顔があふれる給油所」がモットー 車のオアシス、やっさ石油

やっさ石油は、三原市内に2店舗(宮浦給油所・沼田東給油所)を構え、お客さまご自身が給油を行うセルフスタンドではなく、常駐スタッフによるフルサービスというスタイルで事業を展開しています。2008年の創業から10余年にわたり、メーカー(ENEOS・出光・SOLATO・コスモ石油等)の看板を掲げず、当社独自のプライベートブランドを掲げる独立系のガソリンスタンドとして、地域の皆さまに高品質のガソリンを安心価格でお届けしています。

「いつも笑顔があふれる給油所」をモットーに、お客さまとのコミュニケーションを大切に、ニーズに合わせた経営を心掛けているやっさ石油。当店に来られるお客さまはほとんどが地域にお住まいの個人の方や地元の企業、そこで働いている従業員の方々です。

時代の流れとともに他のガソリンスタンドが燃料の配達業務を徐々に縮小していく中、当社はその必要性・重要性を感じ、タンクローリー7台を所有。配達担当スタッフ3名という体制で三原市内を中心に走り回っています。

平成30年7月の豪雨災害の時には、災害復旧工事のために現場まで昼夜問わず燃料を配達しました。広島県や三原

市からの依頼を受けてパトカーに先導していただき、配達したこともあります。皆さまも三原市内のどこかで当社のタンクローリーを見かけたことがあるのではないかと思います。これからも住民の皆さまの生活を支え、いざという時にも力を発揮できる存在であり続けるために、厳しい経営環境においても経営体質の強化に努め、地域に寄り添う姿勢を大切にしていきます。



地域のライフラインを支える存在として

エコカーの普及や若者世代の車離れなど、ガソリンスタンドにとっては厳しい状況にある現在。さらに日本政府は、2030年代の半ばまでに乗用車の新車販売で電動車を100%とするグリーン成長戦略を示している。ただこの構想については、多くの専門家から現実と理想のギャップが指摘されているのが現状でもある。

このような状況の中でも、生活インフラを維持するためには、電気・水道・ガスと同じようにガソリンスタンドは欠かせない存在。特に、やっさ石油のように燃料配達にも対応しているフルサービスのガソリンスタンドは、ライフラインを支える存在として、地域のエネルギー供給を担う重要な役割を果たしていく。



真っ赤な看板で遠くからでも分かりやすい

STORY 50

「やまみで働いている」 そのことが社員の誇りとなる会社に

やまな とおる
取締役副社長兼経営企画室長 **山名 徹** (36歳)
2008年入社
尾道市立栗原中学校・広島県立三原東高等学校 出身

私が家業を継ぐと決めたのは、東京の大学を卒業して就職し都会を満喫していた時でした。「戻って手伝ってくれないか」。父からそう頼まれ、必要とされたことが嬉しかったからです。最初は製造部で5年、その後生産管理部に属し、2012年の関西工場設立の際は立ち上げから携わりました。右も左もわからないままがむしゃらに働き、今は経営陣の一人として会社の舵を取っています。弊社が大切にしているポリシーは「諦めない、ごまかさない、最後までやる気持ち」。失敗を経験に変えていくことで企業価値を高めていけると考えています。2018年には富士山麓に新工場を構え、関東商圏に進出しました。目標は豆腐メーカーのNo.1。社員が誇りを持って働けるような、全国で名を知られる会社を目指します。



休日の過ごし方



家族で公園にお出掛け。オンオフの切り替えを大事に

休みの日は家族で公園に出掛け、凧揚げやボール遊びをしています。子どもたちは6歳、5歳、3歳と可愛さきり。一時期は仕事に忙殺され家族と一緒に過ごす時間を捻出できずにいましたが、今は少しずつ要領を得て上手にオンオフが切り替えられるようになりました。働く時も休息も、それぞれしっかり打ち込むのが大事かなと思います。

地元民に親しまれる食品製造のトップカンパニー

大豆食品を通じ人々の健康と社会に貢献する企業であること、仕事を通してお客様や取引先に満足を提供すること、一人ひとりが能力を高め創造的で闊達な仕事を行うこと。3つの企業理念を掲げ、地元の食品製造トップメーカーとして業界を牽引する。製造技術の革新により量産化に成功、安心安全で美味しいものを安く流通させ、2000年には東証一部上場企業に。また、沼田東町にある「やまみ三原運動公園」は市民憩いの場として愛されている。



質にこだわりぬいた商品を提供



20~30代の社員が多く活気がある



STORY 51

患者の皆さまが自分らしい生活を送れるよう、 笑顔でサポート

かわい めぐみ
河井 萌 (28歳)
2015年入社
三原市立第一中学校・私立如水館高等学校 出身

中学生の頃の職場体験でリハビリを見学したことで、作業療法士という仕事を知りました。作業療法とは、病気やケガをした人が、食事をしたり、トイレに行ったりと、日常生活が送れるようにリハビリをすることです。少しでも元気になってもらえるよう、笑顔で、患者の皆さまの気持ちに寄り添いながらリハビリのお手伝いをしています。患者さまの体が回復し、「ありがとう」と感謝の言葉をかけられると、とてもうれしいですし、また頑張ろうと思えます。子どもの頃は人と話すのが得意ではありませんでしたが、この仕事を通して、人と関わることが好きになりました。まだまだ経験が浅く、悩むことも多いですが、日々、新しい知識を取り入れながら、一人でも多くの患者の皆さまが自分らしい毎日を取り戻すためのお手伝いをしていきたいです。



休日の過ごし方



地元の友人や同僚とフェスや旅行を楽しんでいます

休日には、地元の友人と好きなアーティストのライブやフェスに参加するのが好きです。旅行も趣味で、職場の同期とは年に一度、お休みを合わせて旅行をしています。福山でカフェ巡りを楽しむことも。仕事では患者さまをサポートする私が暗い顔をしてはいけませんので、プライベートで楽しんで、笑顔でいられるようにしています。

充実した医療・福祉環境を提供する地域の中核病院

地域のニーズに応えるべく、高度な診断・治療機器を完備し、質の高い医療を提供する中核病院。ヘリポートも備え、高次救急医療に尽力している。リハビリテーションも施設・人員ともに充実し、365日リハビリを実施。日々医療が進化する中、チーム医療の重要性を理解し、各科の垣根を超え、患者さまを中心とした横の連携の強い治療が行えるのが強みだ。「和顔愛語」の精神で温かみのある医療を目指し、一人ひとりの患者さまにとって最適な一貫した医療の提供に務めている。



患者さまに合ったリハビリを行う



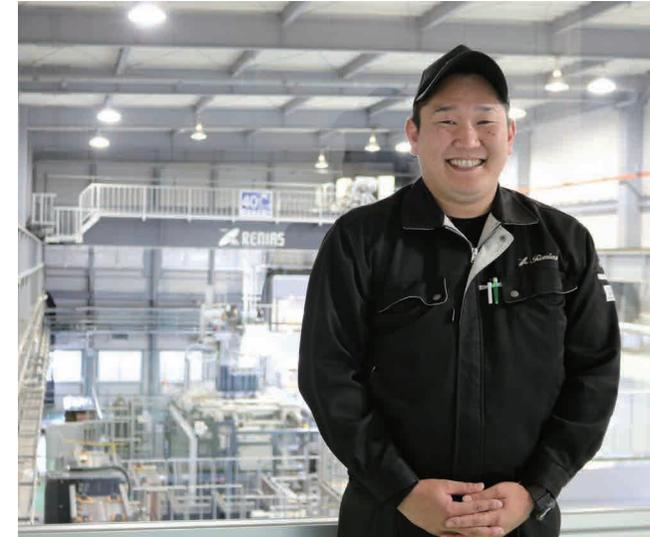
365日24時間体制の医療の提供に
取り組む

STORY 52

三原から世界へ 進化を続ける会社とともに成長

よしもと むさし
吉本 武蔵 (28歳)
2011年入社
三原市立第三中学校・広島県立尾道商業高等学校 出身

学生時代はバスケットボールに打ち込み、けがの治療がきっかけで一時期は理学療法士を志すようになりました。資格を取るための進学が就職か迷っていたところ、先生の勧めもあり現在の会社の企業説明会に参加。掲げる目標の素晴らしさ、社員一人ひとりの意識の高さに惹かれ、入社することを決めました。実際に働いてみると想像以上で、若い世代でも努力次第でステップアップのチャンスがたくさん用意されていて、モチベーションの向上につながりました。会社は、海外市場獲得に向け奮闘している真っ最中。大規模設備の導入を予定しているので、それらを把握してコントロールできるよう、また、機械メンテナンスを手掛けてきた自身のスキルが生かせるよう、日々の勉強に力を注いでいきたいです。



休日の過ごし方



最近始めたゴルフに夢中。仕事の成果を見つけたりも

もともと体を動かすことが好きなので休みの日にはスポーツをしていました。最近は新型コロナウイルス蔓延の影響で、密になりにくいゴルフにチャレンジ。青空の下でコースを回るのが良い気分転換になっています。ゴルフカートの窓に自社製品が使われているとじっくり見てしまい、仕事が大好きな自分に気付いたりもしています(笑)。

国内外でシェアNo.1を誇る車両用窓製品の先駆け

PC樹脂やアルミ加工を用いた車両用窓製品のパイオニア。これまでの樹脂窓の概念を覆す最高性能のPC樹脂製品「RENCRAFT®」は、国内の建設機械やバス窓のみならず、高い技術力が買われ海外の企業からも注文が殺到している。人間力強化プロジェクトを発足、個人と組織が成長できる環境を作り、次世代リーダー育成にも力を入れる。「広島県働き方改革認定企業」や経済産業省選出の「地域未来牽引企業」[はばたく中小企業300社]など表彰実績も多数。



社員平均年齢35歳でパワーがある



より良い製品を生む高性能の設備

三原お仕事ハンドブック 2020

三原を支える会社と先輩

思い描いてみよう 自分たちの未来を

2021年3月発行

発行 Jデスクみはら
(三原市、三原商工会議所、三原臨空商工会、三原公共職業安定所)

制作 株式会社ザメディアジョン

問い合わせ先 Jデスクみはら事務局 三原市経済部商工振興課
〒723-8601
広島県三原市港町3-5-1 商工振興課(本庁舎3階)
TEL0848-67-6013

本書の記事・写真を無断で複写・複製・転載することを禁じます。
法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となります。

